

ER-6n

オーナーズハンドブック

ご使用になる前に必ずこのオーナーズハンドブックをお読みください。

お車には定期的に点検・交換が必要な部品（エンジンオイル、タイヤ、ブレーキパッド、ホース類等）があり、その点検は法により義務付けられております。安心して快適にお乗りいただけるよう点検整備を必ず実施してください。

ご愛用の皆様に

このオーナーズハンドブックには、お買いあげいただいたお車の正しい取り扱い方、安全な運転の仕方、簡単な整備の方法などについて説明してあります。

より快適に、より安全にお乗りいただくために、このオーナーズハンドブックを是非お読みください。

- 仕様の変更などにより図や内容が一部実車と異なる場合がありますので、ご了承ください。
- この車は、運転者を含めて2名まで乗車できます。

本書では正しい取り扱い方法および点検、整備に関する重要な事項を、次のシンボルマークで示しています。



警告

取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が想定される場合を示しています。

注意

取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

要点

- 作業を正しく行うためのポイントを示しています。

目次

安全運転のために	5	ホーンボタン	38
主要諸元	15	パッシングボタン	39
各部の名称	19	ハザードスイッチ	39
エンジン番号・車台番号	22	エンジンストップスイッチ	40
メータの見方、使い方	23	スタータボタン	41
メータユニット	23	各部の取り扱い方	42
(A) MODE (モード) ボタン / (I)		サイドスタンド	42
RESET (リセット) ボタン.....	24	ブレーキ / クラッチレバーアジャスタ ..	43
(B) ニュートラルインジケータライト ..	24	シート	44
(C) / (G) ターンシグナルインジ		ヘルメットケーブル	46
ケータライト	24	ツールキット / U字ロック入れ	47
タコメータ / レッドゾーン	24	バックミラー	48
(E) / (F) / (K) 警告灯	24	サスペンションセッティング	49
(H) ハイビームインジケータライト ..	25	燃料の補給	50
(J) デジタルメータ	25	ガソリンの補給	50
スイッチの使い方	33	正しい運転操作	53
イグニションスイッチ	33	エンジンのかけ方	53
ステアリングロック	35	ならし運転	55
ディマスイッチ	36	走り方	56
ターンシグナルスイッチ	37	シフトダウンの仕方	57

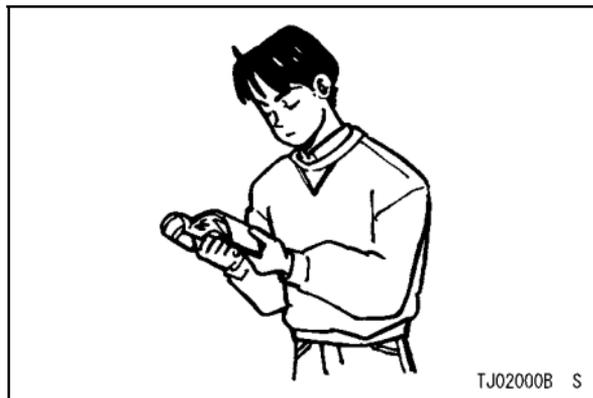
ブレーキの使い方.....	58	エアクリナーエレメントの清掃・交換 ..	79
エンジンの止め方.....	60	スロットルケーブル遊びの調整.....	80
エンジンの非常停止.....	60	アイドル回転速度の調整.....	83
駐車の仕方.....	61	ドライブチェーン.....	84
点検整備について	64	タイヤ.....	89
簡単な整備	66	バッテリーターミナル部の清掃.....	93
ブレーキの液量点検.....	67	ヒューズの交換.....	95
ブレーキライトスイッチの調整.....	68	車のお手入れ	98
クラッチレバーの遊びの調整.....	70	主な注意事項.....	98
エンジンオイルの補給.....	71	長期間の格納.....	103
冷却液.....	74	環境保護について	105
スパークプラグ.....	78	万一の故障に備えて	107

安全運転のために

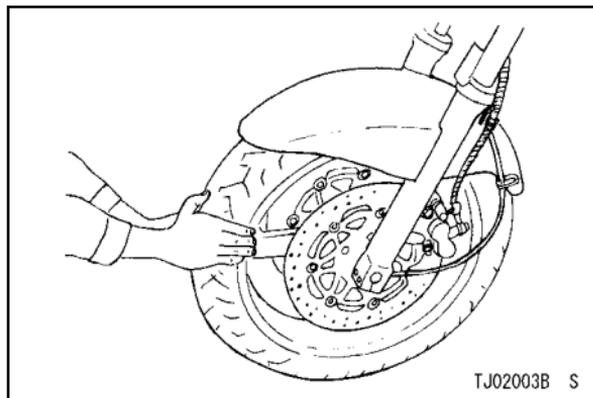
ここにあげた項目は日常の走行上非常に基本的なものです。これらのことを守って安全運転および上手なオートバイ操作を心がけましょう。

運転する前に

- **オーナーズハンドブックをよく読んでください。**車の取り扱いをよくご存じの方も、この車特有の構造や取り扱い方がありますので、このオーナーズハンドブックを必ずお読みください。

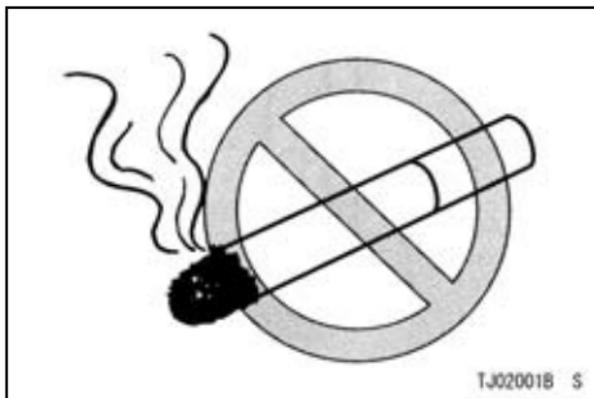


- **日常点検を必ず行ってください。**車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。

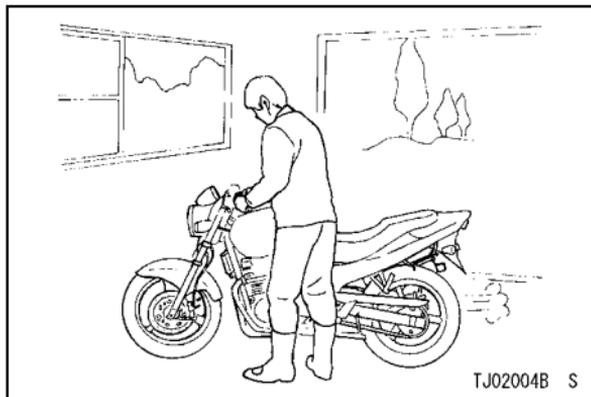


6 安全運転のために

- 定期点検を必ず行ってください。ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。



- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジン始動、暖機運転は、風通しの良い場所で行ってください。



服装

- 運転者と同乗者は、必ずヘルメットを着用してください。これは、法令でも定められています。
 - － ヘルメットは正しくかぶり、あごひもを確実に締めてください。
 - － ヘルメットは二輪車でS、PS(C)、SGまたはJISマークのあるものを必ずお選びください。頭にしっかりと、圧迫感のないものをお選びください。
- ヘルメットにはフェースシールドを取り付けてください。取り付けできないときは、ゴーグルを使用してください。
- 手袋を着用してください。手袋は、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- 保護具や保護性の高い服を着用してください。
 - － 明るく目立つ色の動きやすい服を着用してください。

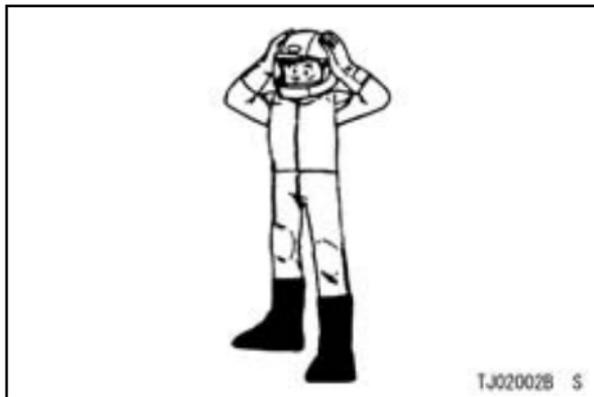
- － 体の露出が少ない長ズボンと長袖のジャケットを着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
- － すその広がったズボンや袖口の広い服は、ブレーキやクラッチ、チェンジ操作の邪魔になり思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。

- 靴は、ブレーキ操作やチェンジ操作のしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆う、足にあったサイズのものを選んでください。

警告

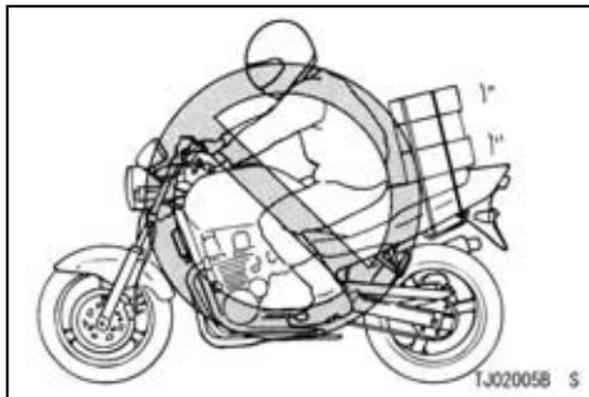
- ヘルメットは正しく着用してください。正しく着用していないと、事故の際、死亡または重大な障害に至る可能性が高くなります。
- 運転者と同乗者は乗車時、ヘルメット、保護具および保護性の高い服を必ず着用してください。

8 安全運転のために



荷物を積むときは

- 荷物を積んだときは、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物を積むときは、“**積み過ぎない**”、“**荷物をしっかりと固定する**”、など十分注意して、安全に走行してください。



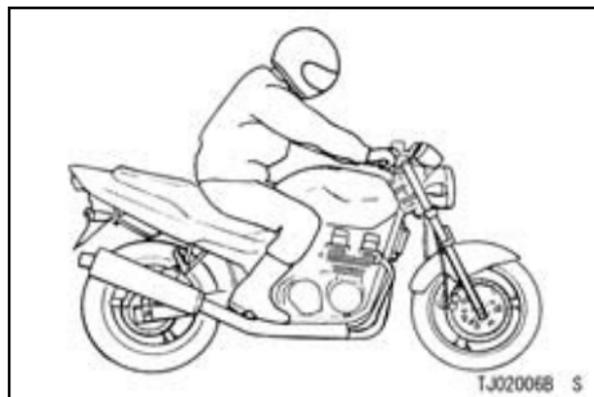
- シートに軽い荷物を載せる時、ロープが掛けられるように、ロープフックがリヤフェンダについてます。



A. ロープフック

乗り方

- 走行中は、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。



- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足は必ず、同乗者用ステップにのせさせてください。

10 安全運転のために

この車の乗車定員は2名です。なお、次の運転者は法令により2人乗りすることはできません。

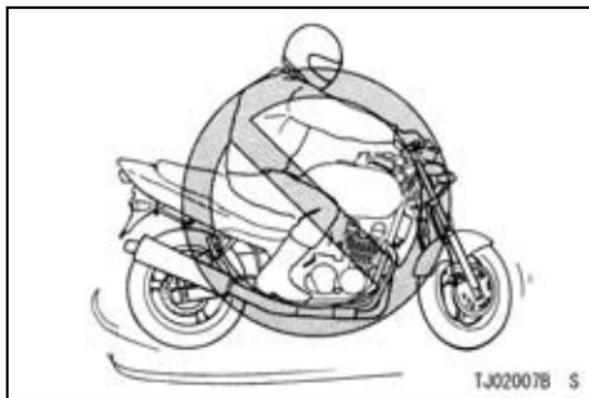
一般道路

免許取得後1年未満の運転者

高速道路

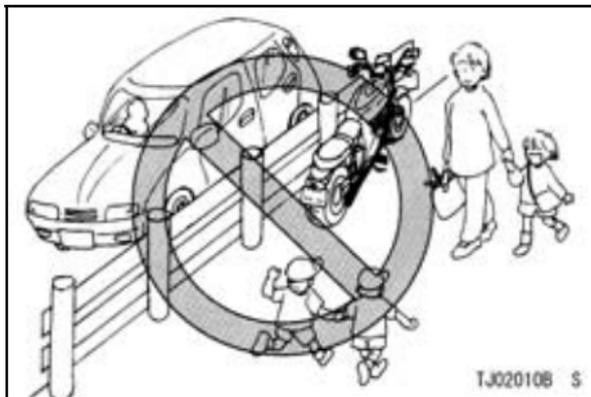
免許取得後3年未満の運転者、20歳未満の運転者、または2人乗り運転が禁止されている区間

- 急激なハンドル操作や片手運転は横すべりや転倒の原因となります。絶対におやめください。



駐車するときは

- 車は水平でしっかりとした地面の場所に駐車してください。やむをえず傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、車の転倒、動き出しのないよう、安全処置に十分留意してください。
- 交通の邪魔にならない安全な場所に駐車してください。

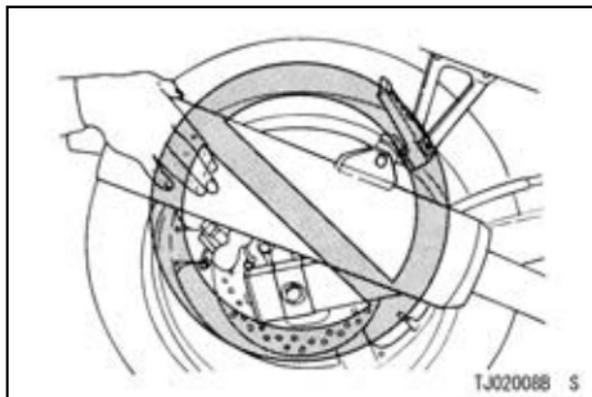
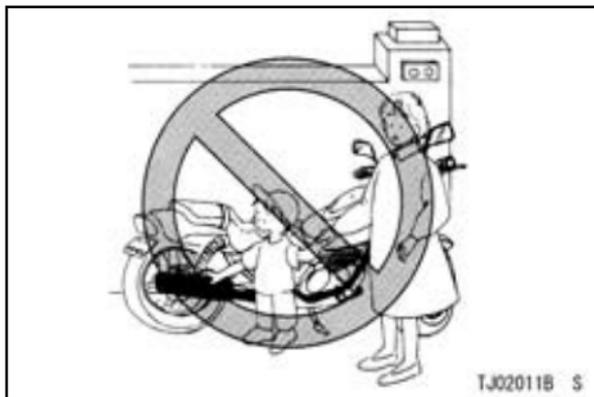


- エンジン回転中や停止後しばらくの間はマフラ、エンジンに触れないでください。
- マフラ、エンジンが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車しましょう。やむをえず子供が遊ぶ施設や人通りの多いところに駐車するときは、他の方がマフラ、エンジンに触れないように配慮してください。

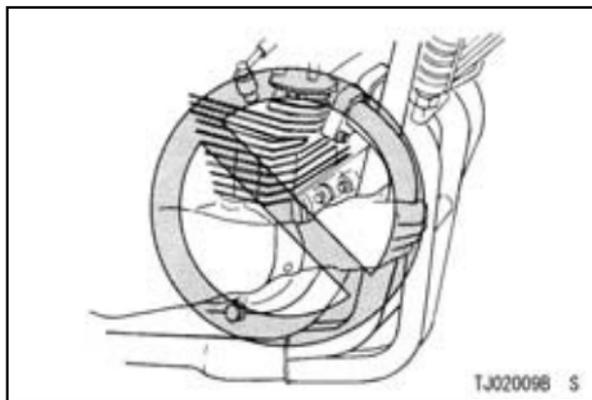
⚠ 警告

マフラ、エンジンは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は高温になるため、引火し、火災およびやけどを引き起こすおそれがあります。
マフラ、エンジンが草、枯れ葉等燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

12 安全運転のために



熱くなってるマフラ、エンジンに触れるとやけどをすることがあります。
エンジンの回転中や停止後しばらくの間はマフラ、エンジンに触れないでください。
他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。



洗車後や水たまりを走行したときは

- 洗車後や水たまりを走行した後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。
- ブレーキの効が悪いときは、周囲の交通状況に十分注意して低速で走行しながら、ブレーキの効きが回復するまでブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りを乾燥させてください。

タイヤ

- 異なった種類のタイヤを使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の走行安定性に悪影響を及ぼします。絶対に避けてください。

調整

- 自己流のエンジン調整、部品の取り外しは行わないでください。エンジンの調整はブライト取扱店におまかせください。

触媒装置

この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。この触媒装置の働きによって排出ガスに含まれる一酸化炭素(CO)、炭化水素(HC)、窒素酸化物(NOx)の有害物質の排出量を低減します。

触媒装置の適切な使用のため、以下の注意点をご確認ください。

改造

- **車の構造や機能に関する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることとなります。**
- **車を改造することは法律に触れることは勿論、他の人への迷惑行為となります。**
- **他のマフラをこの車に取り付けますと、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラを交換する場合はブライト取扱店へご相談ください。**

14 安全運転のために

昼間もヘッドライトオン

- この車は、エンジンが始動してスタータボタンを放すと、ヘッドライトが点灯するデイライトシステム(昼間点灯システム)を採用しています。
- 通常はヘッドライトをロービームにして走行しましょう。

カウリングの取り扱い上の注意

- 走行中は、カウリングと二輪車の上に、物を置かないでください。ハンドル操作に悪影響を及ぼすおそれがあります。

- ブレーキ液、ガソリン、洗浄液等の化学物質が、スクリーンやカウリング本体にかかる場合、損傷の原因となりますので注意してください。
- スクリーンを洗浄する時は、表面を傷つけないように、水またはぬるま湯をかけながら、柔らかい布またはスポンジで拭いてください。

主要諸元

性能

最高出力	52 kW (71 PS) @8 000 rpm
最大トルク	66 N·m (6.7 kgf·m) @7 000 rpm

寸法・重量

全長	2 100 mm
全幅	760 mm
全高	1 100 mm
軸間距離	1 405 mm
最低地上高	140 mm
車両重量	200 kg

エンジン

型式	4ストローク、2シリンダ、DOHC、水冷
総排気量	649 cm ³
内径×行程	83 ×60 mm
圧縮比	11.3:1

16 主要諸元

燃料装置	FI(フューエルインジェクション)
点火方式	バッテリー&コイル(トランジスタ点火)
進角方式	電子進角
点火時期	上死点前10°/1 300 rpm ~ 34°/5 000 rpm
始動方式	セル方式
潤滑方式	セミドライサンプ式
エンジンオイル	カワサキ純正4サイクルオイル
エンジンオイル量	2.4 L
冷却液量	1.2 L
スパークプラグ	NGK CR9EIA-9
スパークプラグギャップ	0.8 ~ 0.9 mm
エアクリーナエレメント	ウレタンエレメント

動力伝達装置

トランスミッション型式	常時噛合, 6段リターン式
クラッチ	湿式多板式
後輪駆動方式	チェーンドライブ
一次減速比	2.095 (88/42)

二次減速比		3.067 (46/15)
総減速比		5.473 (6速)
変速比:	1速	2.438 (39/16)
	2速	1.714 (36/21)
	3速	1.333 (32/24)
	4速	1.111 (30/27)
	5速	0.966 (28/29)
	6速	0.852 (23/27)

フレーム

キャスタ		24.5°
トレール		102 mm
タイヤサイズ	前輪	120/70 ZR17 M/C (58W) チューブレス
	後輪	160/60 ZR17 M/C (69W) チューブレス
リムサイズ	前輪	J17M/C × MT3.50
	後輪	J17M/C × MT4.50
燃料タンク容量		15.5 L

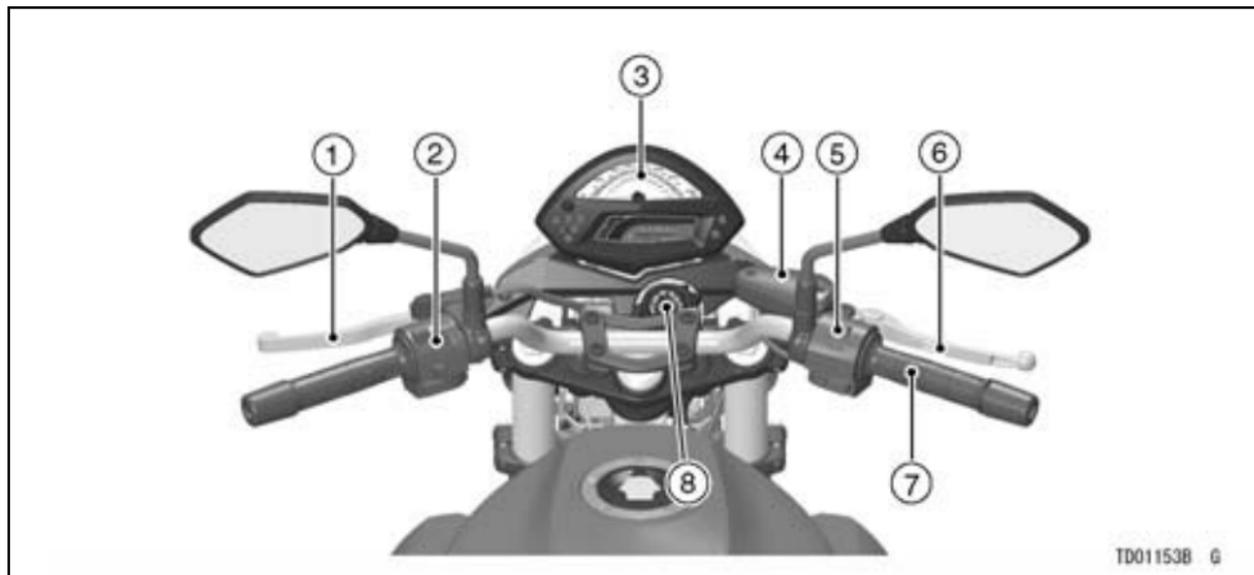
18 主要諸元

電装品

バッテリー	12 V 10 Ah
ヘッドライト	12 V 55 W/55 W (ハイビーム/ロービーム)
テール/ブレーキライト	LED

この車のテール/ブレーキライトにはLED(発光ダイオード)を採用しています。LEDテール/ブレーキライトが一つでも点灯しない時は、ブライツ取扱店にご相談ください。
(主要諸元は予告なく変更される場合があります)

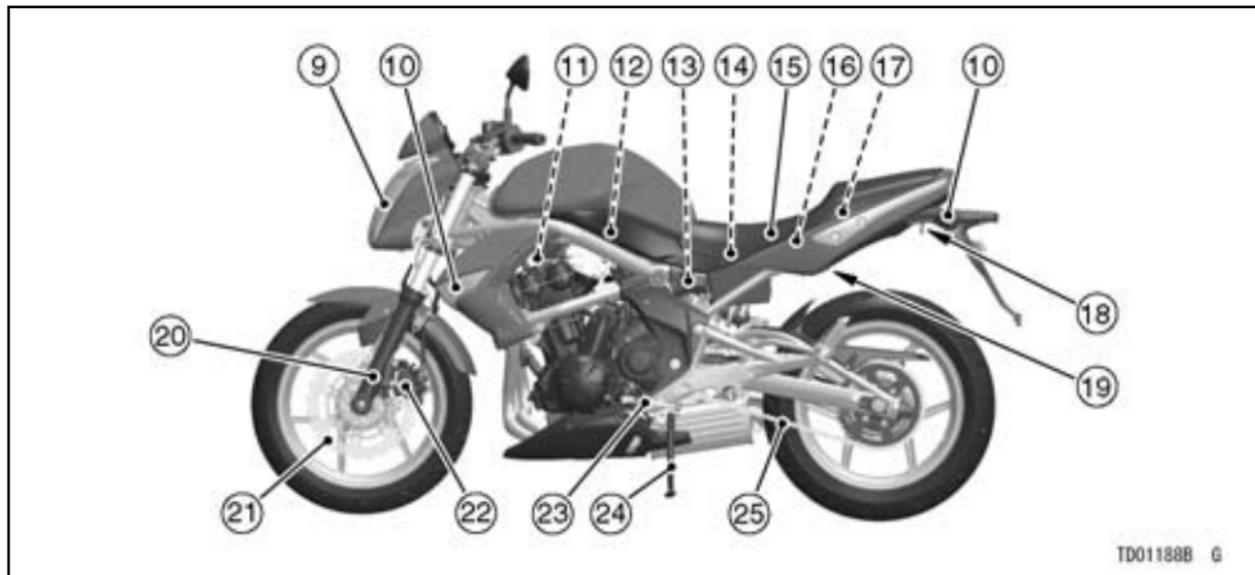
各部の名称



1. クラッチレバー
2. 左ハンドルスイッチ
3. メータユニット
4. ブレーキリザーバ(フロント)

5. 右ハンドルスイッチ
6. ブレーキレバー
7. スロットルグリップ
8. イグニションスイッチ/ステアリングロック

20 各部の名称

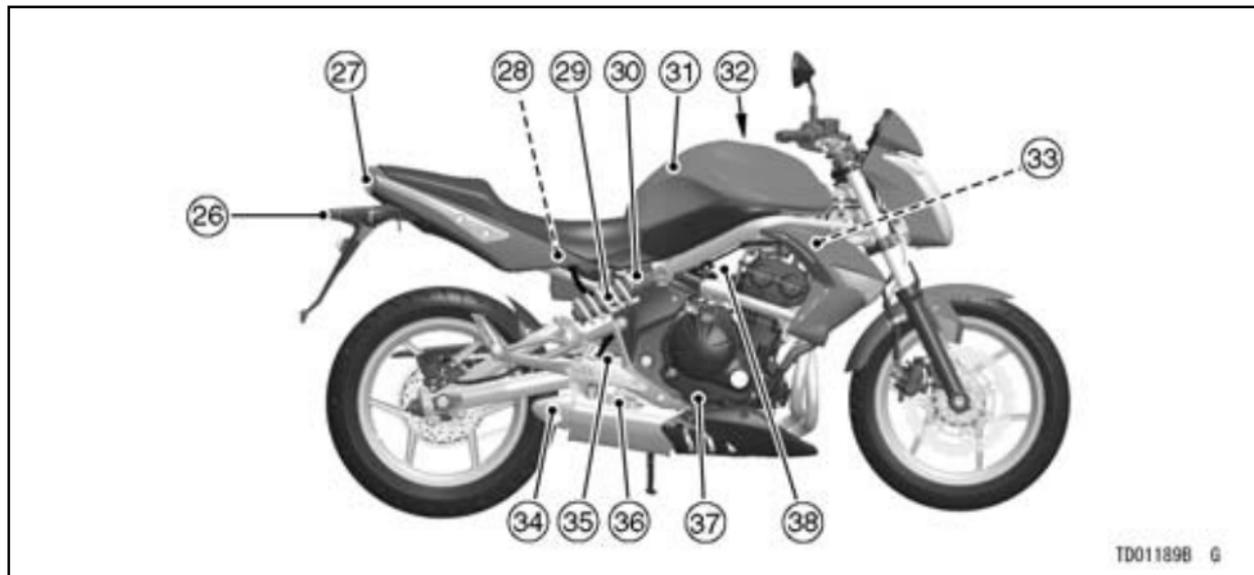


TD01188B G

- 9. ヘッドライト
- 10. ターンシグナルライト
- 11. スパークプラグ
- 12. エアクリーナ
- 13. メインヒューズ
- 14. バッテリ

- 15. シート
- 16. 車載工具／小物入れ
- 17. ヘルメットケーブル
- 18. ロープフック
- 19. シートロック
- 20. フロントフォーク

- 21. ディスク
- 22. キャリパ
- 23. シフトペダル
- 24. サイドスタンド
- 25. ドライブチェーン



- 26. ライセンスプレートライト
- 27. テール/ブレーキライト
- 28. ブレーキリザーバ(リヤ)
- 29. リヤショックアブソーバ
- 30. スプリング初期荷重アジャスタ
- 31. 燃料タンク
- 32. 燃料タンクキャップ

- 33. 冷却液リザーブタンク
- 34. マフラ
- 35. リヤブレーキライトスイッチ
- 36. リヤブレーキペダル
- 37. オイルレベルゲージ
- 38. アイドルアジャスティングスクリュー

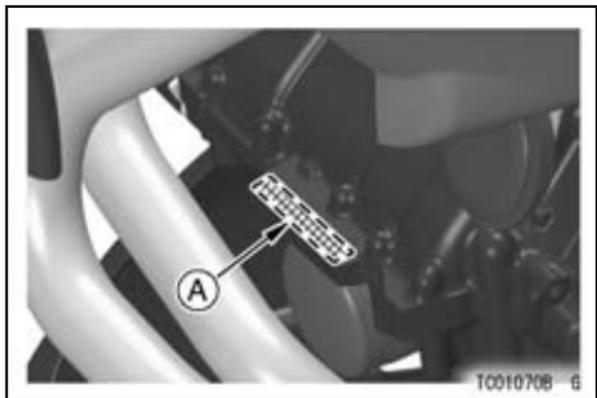
エンジン番号・車台番号

エンジン番号・車台番号は車の登録のために使われます。これらの番号はブライト取扱店に部品を注文する時に必要であり、盗難にあった場合、多くの同機種の車、あるいはいづらか特徴の似かよった車の中からあなたの車を捜し出す手掛かりにもなります。

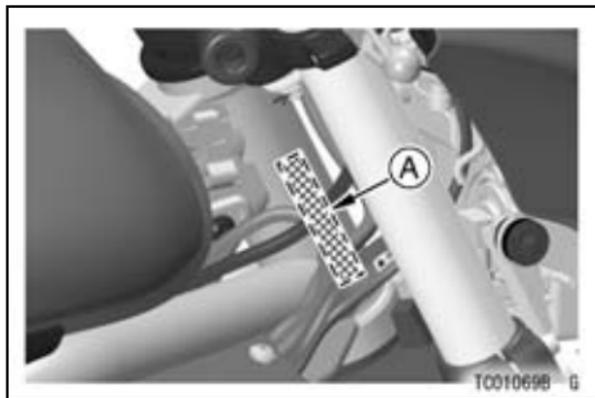
あなたの車のエンジン番号・車台番号を下記の欄に記入してください。

エンジン番号

車台番号



A. エンジン番号 (エンジン前方、クランクケース上面)

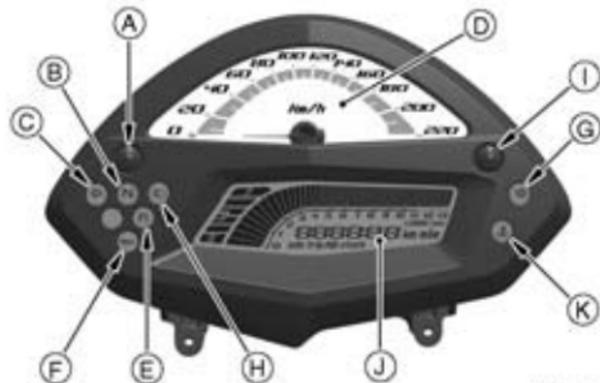


A. 車台番号 (フレーム先端、ステアリング右側面)

メータの見方、使い方

メータユニット

- A. MODE (モード) ボタン
- B. ニュートラルインジケータライト
- C. レフトターンシグナルインジケータライト
- D. スピードメータ
- E. FI警告灯
- F. 油圧警告灯
- G. ライトターンシグナルインジケータライト
- H. ハイビームインジケータライト
- I. RESET (リセット) ボタン
- J. デジタルメータ
- K. 水温警告灯



24 メータの見方、使い方

(A) MODE(モード)ボタン / (I) RESET(リセット)ボタン

MODE(モード)ボタンは、デジタルメータ内の表示を切り替えたり、時計の時刻を合わせたりするときに使用します。RESET(リセット)ボタンは、デジタルメータ内の時計の時刻を合わせたり、トリップメータを0.0に戻したりするときに使用します。

(B) ニュートラルインジケータライト

N:トランスミッションがニュートラルのとき、ニュートラルインジケータライトが点灯します。

(C) / (G) ターンシグナルインジケータライト

☞☞ :ターンシグナルスイッチを ☞ の方に入れるとレフトターンシグナルインジケータライトが、☞ の方に入れるとライトターンシグナルインジケータライトが点滅します。

(D) スピードメータ

走行中の速度を示します。法定速度を守り安全走行してください。

タコメータ / レッドゾーン

タコメータは毎分のエンジン回転数を示します。タコメータにはレッドゾーンがあります。指針がレッドゾーンに入らないように運転してください。

注意

レッドゾーンは、エンジン許容回転数オーバーを示したもので、レッドゾーンに入るような運転あるいはレッドゾーン内での運転は、エンジンが不円滑になりエンジンの寿命に悪影響を与えます。

(E) / (F) / (K) 警告灯

この警告灯は、デジタルメータ内のそれぞれのシンボルマークと併用して、油圧警告表示、フューエルインジェクション警告表示、水温警告表示を表します。

(F) 油圧警告表示:イグニッションキーをONの位置にすると、デジタルメータ内の油圧シンボルマーク()が点灯します。エンジンが始動すると油圧シンボルマーク()は

消灯します。走行中にデジタルメータ内の油圧シンボルマーク()が点灯するのは、潤滑系統の異常です。

もし点灯すればエンジンを止めて、エンジンオイルが少なくないか、オイルポンプおよびオイルラインに異常がないかを点検してください。

(E)フューエルインジェクション警告表示:

イグニッションキーをONの位置にすると、デジタルメータ内のFIシンボルマーク(FI)は点灯し、その後消灯します。イグニッションスイッチをONの位置にしても、FIシンボルマーク(FI)が点灯しないとき、または点灯したままのとき、あるいは、走行中に点灯したときは、ただちにブライツ取扱店で点検をお受けください。

(K)水温警告表示:イグニッションキーをONの位置にすると、スピードメータ内の警告灯と、デジタルメータ内の水温シンボルマーク()は点灯し、その後消灯します。走行中に点灯するのは冷却液の温度が115°Cを超えているときです。

もしエンジンが始動した後、タコメータ内の警告灯とデジタルメータ内の水温シンボルマーク()が点灯すれば、エンジンを止め、エンジンが冷えてからリザーブタンクの冷却液レベルを点検してください。

注意

シンボルマークが点灯したまま走行すると、故障の原因となります。警告灯が点灯すれば走行しないでください。もし続けて走行すると、エンジンの損傷の原因になります。

(H)ハイビームインジケータライト

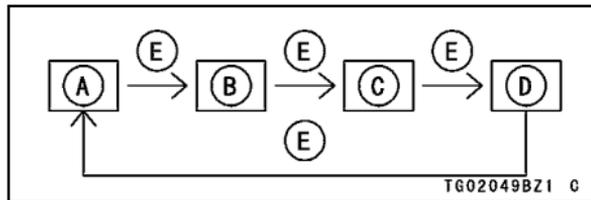
 :ヘッドライトの照射を上向きにすると、ハイビームインジケータライトが点灯します。

(J)デジタルメータ

タコメータ内にはデジタルメータがあり、タコメータゲージ、時計、オドメータ、トリップメータA/B、燃料ゲージを表示します。イグニッションスイッチをONの位置にするとデジタルメータ

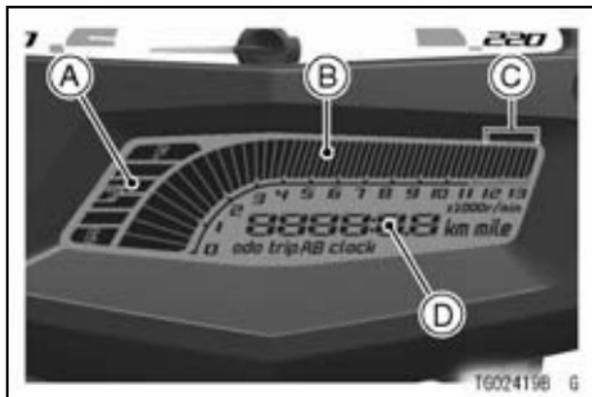
26 メータの見方、使い方

タ内の全セグメントが表示されます。MODE (モード) ボタンを押すと、デジタルメータ内の表示を、時計、オドメータ、トリップメータA/Bの順に切り替えることができます。



- A. 時計
- B. オドメータ
- C. トリップメータA
- D. トリップメータB
- E. 切り替え順序

デジタルメータ



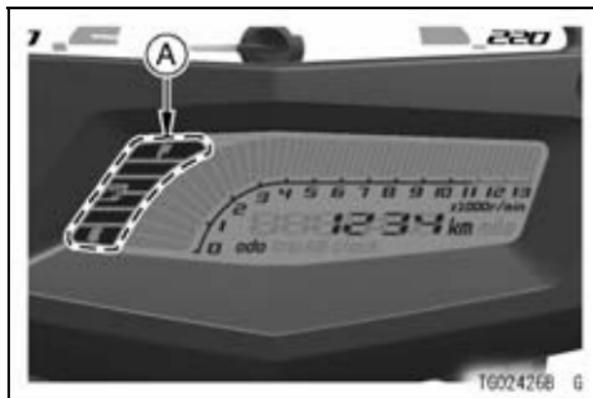
- A. 燃料ゲージ
- B. タコメータ
- C. レッドゾーン
- D. 時計／トリップメータ／オドメータ

要点

- 走行中は、デジタルメータの表示を切り替えないでください。

燃料ゲージ

燃料タンクの燃料は、表示されるセグメントの数によって表示されます。燃料が満タンのときは、燃料ゲージの全6セグメントが表示されます。もし、燃料ゲージが正しく表示されないときは、ブライイト取扱店にご相談ください。

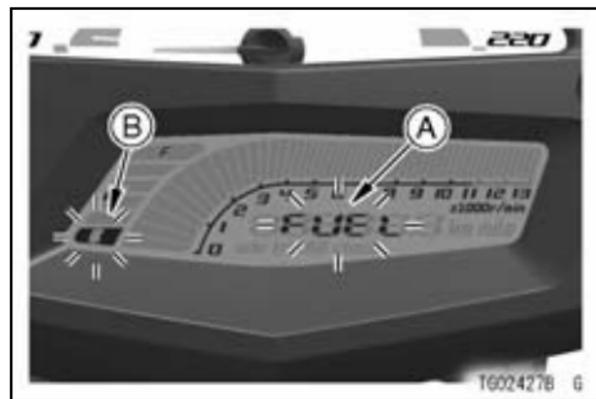


A. 燃料ゲージ

燃料が減るに従ってセグメントは、“F”から順に“E”の方へ消えていき、燃料タンク内の残量を示します。残り1つのセグメントのみ表

示されると燃料警告メッセージ“FUEL”と“E”のセグメントが点滅します。この時点では、燃料が3.7 L残っていますが、燃料を早めに補給してください。

サイドスタンド状態においては燃料ゲージはガソリンの量を正確に表示しません。車体を正立状態にして、ガソリンの量の確認を行なってください。



A. 燃料警告メッセージ“FUEL”

B. “E”セグメント

28 メータの見方、使い方

要点

- “FUEL”の文字が表示された時にMODE (モード) ボタンを押すと、デジタルメータの表示をオドメータ、トリップメータA/B、または時計に戻すことができます。

マイル・キロメートル単位表示

デジタルメータ内のスピードメータ単位の表示は、切り替えることができます。

スピードメータ:

マイル (mph) ・キロメートル (km/h)

日本国内ではデジタルメータ内の表示は、スピードメータをキロメートル (km/h) に合わせてください。

要点

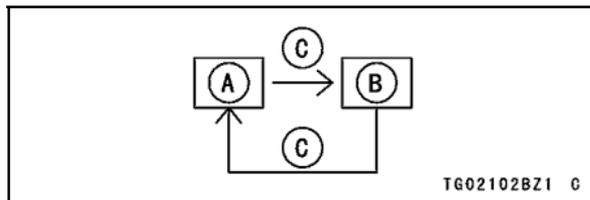
- 誤った単位を表示して走行しないでください。切り替え方法は、以下の手順に従ってください。

- デジタルメータ内にオドメータを表示します。
- MODE (モード) ボタンを押しながらRESET (リセット) ボタンを押すと、スピードメータ単位 (mph・km/h) が切り替わります。



A. マイル・キロメートル単位表示 (mph・km/h)

- スピードメータ単位 (mph・km/h) 表示は次のように切り替わります。



- A. マイル (mph)
- B. キロメートル (km/h)
- C. 切り替え順序

要点

- マイル・キロメートル (mph・km/h) の単位表示はバッテリーを取り外したときでも、リセットされません。

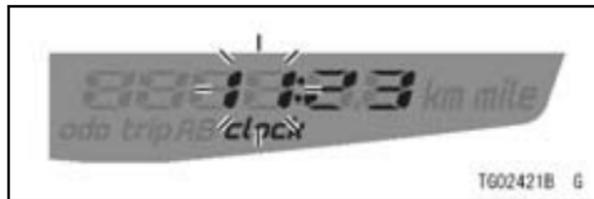
時計の時刻調整の仕方

1. イグニションスイッチをONの位置にします。
2. MODE (モード) ボタンを押して、時刻を表示します。
3. RESET (リセット) ボタンを2秒以上押して時刻調整モードにします。時刻調整モードになると表示中の<時>と<分>の数字が点滅します。



30 メータの見方、使い方

- 次にRESET (リセット) ボタンを1回ずつ押すと、表示中の点滅位置が<時>→<分>に順次変わります。数字を合わせたいところに点滅位置を合わせます。



- 数字合わせはMODE (モード) ボタンを押して行います。
- 時刻を合わせ終われば、RESET (リセット) ボタンを押して、<時>と<分>の数字を点滅させます。

- 最後にMODE (モード) ボタンを押します。これで表示の点滅はなくなり、時計の表示に戻ります。

要点

- 時計はバッテリーによって、イグニションスイッチがOFFの位置でも動いています。しかし、バッテリーが放電またはバッテリーを取り外した場合には、表示時間を調整する必要があります。
- 表示時間を調整するときは、MODE(モード)ボタンを1回ずつ押すと、1時間毎または1分毎に変わります。MODE(モード)ボタンを押した状態にすると時間または分の単位が連続して変わります。

オドメータ

走行した総走行距離を示します。定期点検整備の目安となります。オドメータは“0”に戻すことはできません。



要点

- オドメータは、バッテリーを取り外したときでも、リセットされません。
- オドメータは、999,999までカウントできません。

トリップメータA/B

メータを“0.0”に戻した時点からの走行距離を示します。

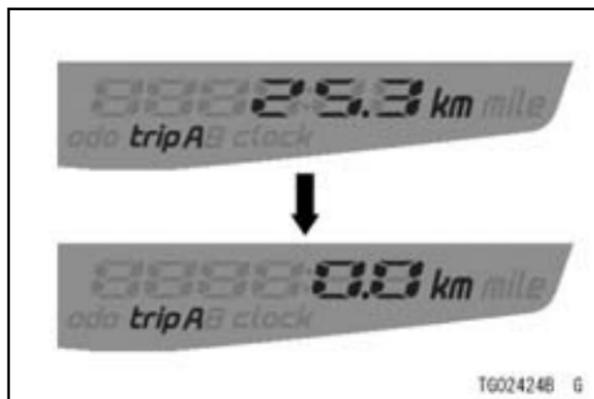
TRIP A(トリップメータA) 0.0 ~ 999.9

TRIP B(トリップメータB) 0.0 ~ 9999.9

トリップメータを0.0に戻すときは、下記の手順で行います。

1. MODE(モード)ボタンを押して、トリップメータAまたはトリップメータBを表示します。
2. RESET(リセット)ボタンを2秒以上押すと“0.0”に戻ります。

32 メータの見方、使い方



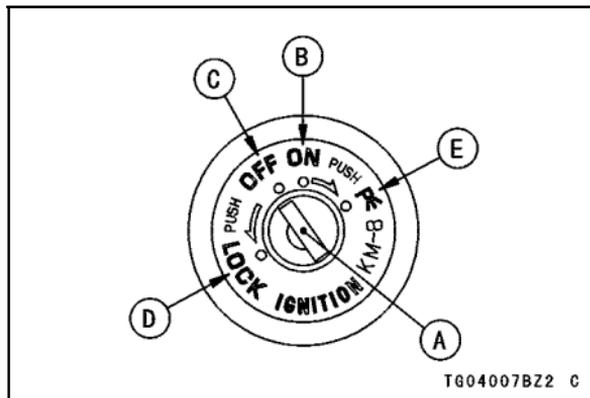
要点

- トリップメータはバッテリーによって、イグニションスイッチがOFFの位置でも“0.0”に戻りません。しかし、バッテリーが放電またはバッテリーを取り外した場合には、トリップメータは“0.0”に戻ります。
- トリップメータは、999.9(トリップメータA)または9999.9(トリップメータB)までカウントしたとき、トリップメータは“0.0”に戻ります。

スイッチの使い方

イグニションスイッチ

イグニションスイッチは4段切換えです。電気回路の“ON”－“OFF”の切り替えはキーを回して行います。



- A. イグニションスイッチ
- B. ON(昼夜間走行)
- C. OFF(停止)
- D. LOCK(ロック)
- E. P(駐車)

キーの位置	作用	キーの脱着
P	エンジンは始動できない。テールライト、ライセンスプレートライト、シティーライトが点灯する。ターンシグナルの回路を使用できる。ステアリングがロックされる。	抜ける
ON	エンジンは始動し走行できる。すべての電装部品が使用できる。	抜けない
OFF	エンジンが停止する。エンジンは始動できない。すべての電気回路を遮断する。	抜ける
LOCK	エンジンは始動できない。すべての電気回路を遮断する。ステアリングがロックされる。	抜ける

 警告

走行中はイグニッションキーを操作しないでください。

走行中にスイッチをOFFやLOCK、Pの位置にすると電気システムの作動が停止し、思わぬ事故につながるおそれがあります。キーは必ず停車中に操作してください。

要点

- 始動時、イグニッションスイッチをONの位置に回したとき、シティライト、テールライト、ライセンスプレートライトが点灯します。ヘッドライトはエンジンが始動してスタータボタンを放すと上側のヘッドライトが点灯します。

注意

イグニッションスイッチがONあるいはPの位置のまま、またはエンジン始動後、アイドリング状態で長時間(1時間以上)放置すると、バッテリーあがりの原因となります。

車から離れるときは必ずステアリングロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。金属製キーホルダは、使用しないでください。また、イグニッションキーにリングなどで他のキーをつなげないでください。走行中、キーホルダや他のキーが車の部品を傷つけます。

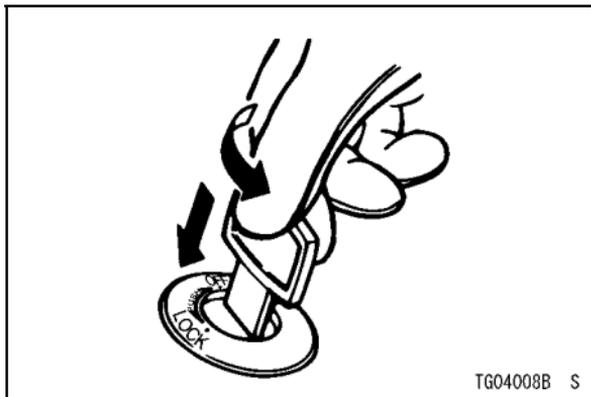
ステアリングロック

車から離れるときは、盗難予防のため必ずステアリングロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。

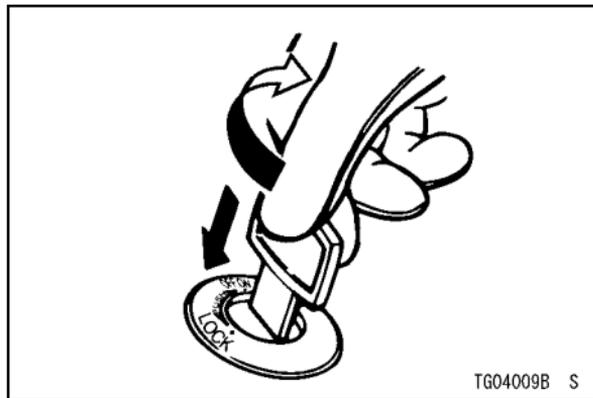
チェーンロック等のご使用もおすすめします。

かけ方

1. ハンドルを左にきります。
2. LOCKの位置にするときは、OFFの位置でキーを押し込み、そのままLOCKの位置まで回します。



3. Pの位置にするときは、ONの位置でキーを押し込み、そのままPの位置まで回します。



4. ハンドルを軽く左右に動かし確実にロックされているか確認します。
5. キーを抜きます。

 **警告**

交通の邪魔にならない、安全な場所に駐車しましょう。
エンジン停止後しばらくの間は、エキゾーストパイプ、マフラ、エンジンが熱くなっています。他の方がエキゾーストパイプ、マフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。

外し方

1. キーを差し込みます。
2. キーをOFFの位置まで回します。

 **警告**

走行前にハンドルを左右に動かして、ハンドルのきれ角が左右均等であるか確認してください。

ディマスイッチ

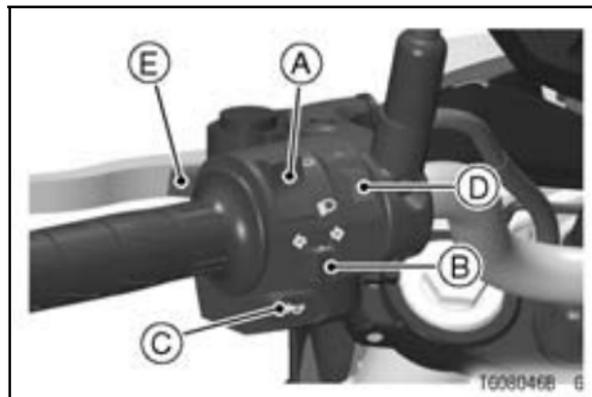
ヘッドライトの照射の上下切替はディマスイッチで行います。ヘッドライトの照射を上向きにすると、ハイビームインジケータライトが点灯します。

 …上向き

 …下向き

要点

- 通常は、ヘッドライトをロービーム( : 下向き)にして走行してください。



- A. デイマスイッチ
- B. ターンシグナルスイッチ
- C. ホーンボタン
- D. ハザードスイッチ
- E. パッシングボタン

ターンシグナルスイッチ

右左折するときや進路を変更するときは、ターンシグナルで合図します。

スイッチを(♡)の方に入れると、メータユニットのレフトターンシグナルインジケータライトが、(♡)の方に入れるとライトターンシグナルインジケータライトがターンシグナルライトと共に点滅します。

♡ ……左折

♡ ……右折



警告

ターンシグナルスイッチは自動的に解除しません。使用後は必ずスイッチを押して解除してください。つけたままにしておくと他の方の迷惑となります。

注意
正規のワット数以外の電球を使用するとターンシグナルライトは正常に作動しません。必ず正規のワット数のものを使用してください。

ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。ホーンが正しく作動しない時は、ホーンが故障しています。

要点

- 必要なとき以外は使用しないでください。

パッシングボタン

ボタンを押すとヘッドライトの上向きが点灯します。先行車を追い越すときなど他車に対して合図をするときに使用します。

要点

- パッシングボタンは人差し指で操作してください。
- ディマスイッチが  (上向き) の位置のときは使用出来ません。

ハザードスイッチ

イグニションスイッチをONまたはPの位置にして、ハザードスイッチを押し込むと、すべてのターンシグナルライトが点滅します。

注意
長時間ハザードスイッチを使用しますと、バッテリーあがりの原因になりますので30分以上は使用しないでください。

40 スイッチの使い方

エンジンストップスイッチ

エンジンを始動するときは、イグニションスイッチを**ON**の位置にすると共にエンジンストップスイッチを  の位置にします。  の位置ではエンジンは始動しません。

エンジンストップスイッチは、転倒またはスロットル系統に故障を生じたときなどの非常時にエンジンを停止させるために使用します。

注意

エンジンストップスイッチでエンジン停止後、すぐにイグニションスイッチをOFFの位置にしてください。ONのままにしておくと、バッテリーあがりの原因となります。走行中にエンジンストップスイッチを  →  →  にするとエンジン回転が円滑に作動しなくなり、エンジンに悪影響を及ぼす原因となります。

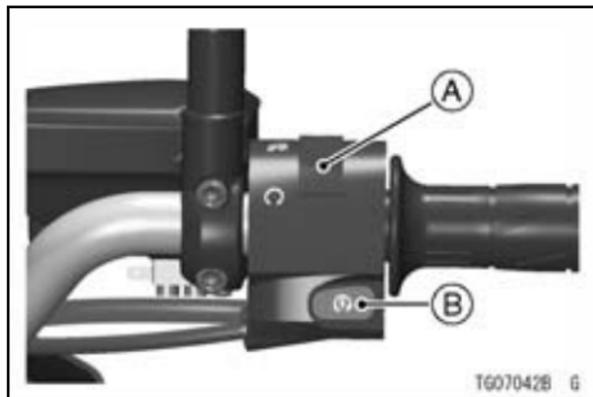
スタータボタン

イグニションスイッチをON、エンジンストップスイッチを  の位置にしてスタータボタンを押すと、スタータが作動してエンジンが始動します。

エンジン始動時は**トランスミッションをニュートラルにし、クラッチレバーを握って**からスタータボタンを押します。

注意

スタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。



- A. エンジンストップスイッチ
- B. スタータボタン

各部の取り扱い方

サイドスタンド

この車にはサイドスタンドがあります。

サイドスタンドを使ったときは、発進する前に、サイドスタンドを確実に格納する習慣をつけてください。サイドスタンドが降りたままギヤを入れると、サイドスタンドスイッチとスタータロックアウトスイッチが働いて、自動的にエンジンが停止するようになっています。

要点

- サイドスタンドを使用する時には、ハンドルを必ず左にきってください。
- 車から離れる前にサイドスタンドが確実にセットされているか確認してください。



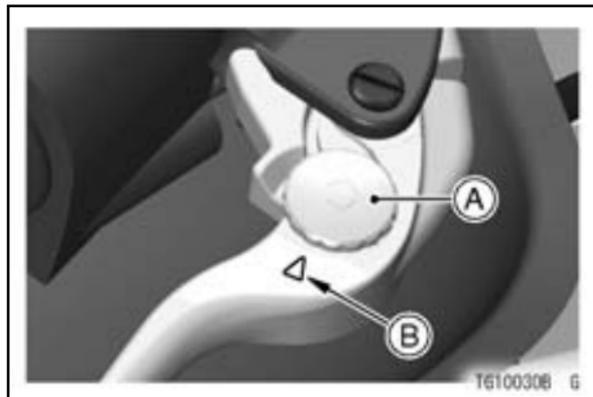
A. サイドスタンド

ブレーキ／クラッチレバーアジャスタ

ブレーキレバーとクラッチレバーのアジャスタを使って、レバーとグリップの距離をお好みの位置に合わせて、5段階に調整できます。レバーとグリップの距離は1の位置が最大、5の位置が最小です。

調整方法：

1. レバーを前方に押します。
2. アジャスタを回して、アジャスタの番号とレバーホルダの三角マークを合わせます。
3. レバーを放します。



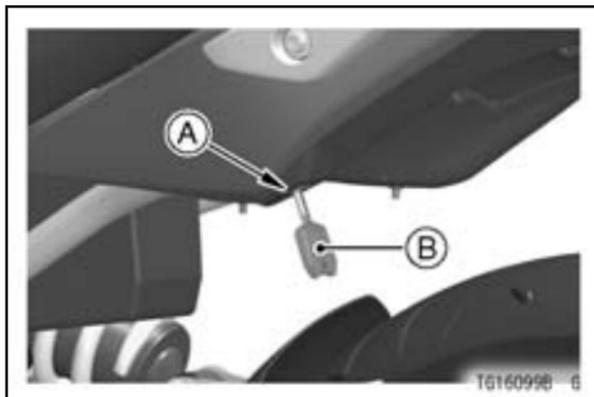
- A. アジャスタ
B. マーク

44 各部の取り扱い方

シート

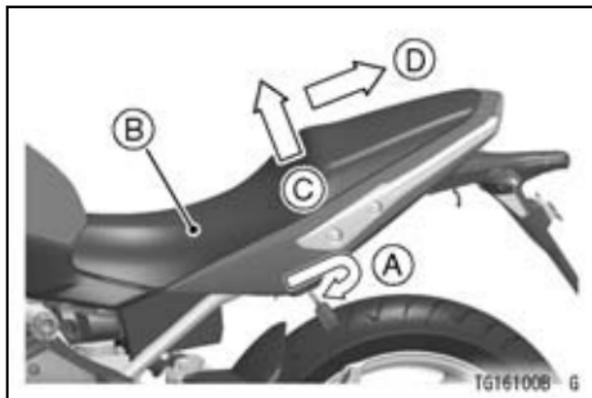
シートの取り外し方

シートロックにイグニションキーを差し込みます。



- A. シート
- B. イグニションキー

キーを時計回りに回しながらシートの後側を持ち上げ、シートを後方へ引いて取り外します。



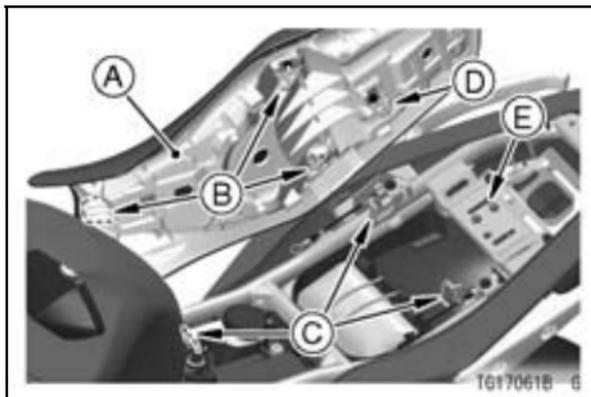
- A. キーを回す
- B. シート
- C. 上へ持ち上げる
- D. 後方へ引く

要点

- シートが取り外しにくい時は、シートロックにイグニションキーを深く差し込み、シートの後側を強く押さえながらイグニションキーを時計回りに回してください。

シートの取り付け方

- シート前方にあるストッパをシートブラケットに差し込み、シートを前方に押し、シート左右のストッパをシートブラケットに通します。



- A. シート
- B. ストッパ
- C. シートブラケット
- D. フック
- E. ロック

- シート後端にあるフックをシートロックに差し込み、シートの後側を上から押してロックします。
- シートが確実にロックされているかを確認します。

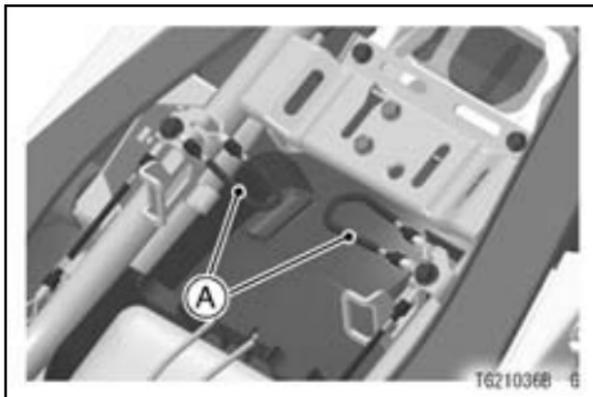
46 各部の取り扱い方

ヘルメットケーブル

ヘルメットをかけるためのヘルメットケーブルがシートの下にあります。

ヘルメットケーブルの使い方

- ヘルメットケーブルを使用するときは、シートをはずしてヘルメットケーブルにヘルメットの金具をかけます。そしてシートをロックします。



A. ヘルメットケーブル

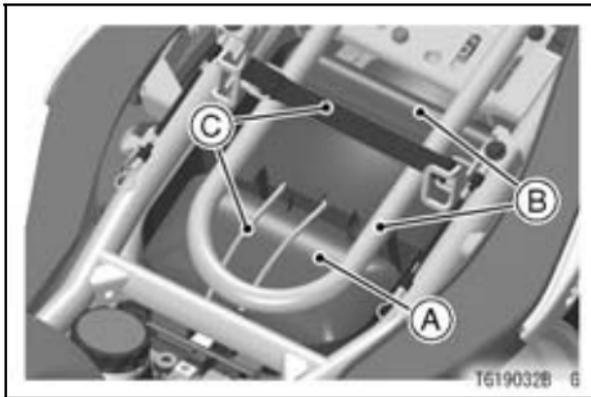
警告

ヘルメットをヘルメットケーブルにつけたまま走行しないでください。つけたまま走行すると車の部品に損傷を与えたり、走行の妨げになることもあります。そしてヘルメットに損傷を与え機能を低下させることにもなります。

ツールキット/U字ロック入れ

ツールキットとU字ロック入れはシートの下にあります。

U字ロック(標準装備でない)はロック部とU字部を取り外した状態で、それぞれストラップで固定してU字ロック入れに格納してください。



- A. ツールキット
- B. U字ロック(標準装備でない)
- C. ストラップ

要点

- ツールキットとU字ロックはバンドで確実に固定してください。
- 洗車時に入っているものを外へ出してください。

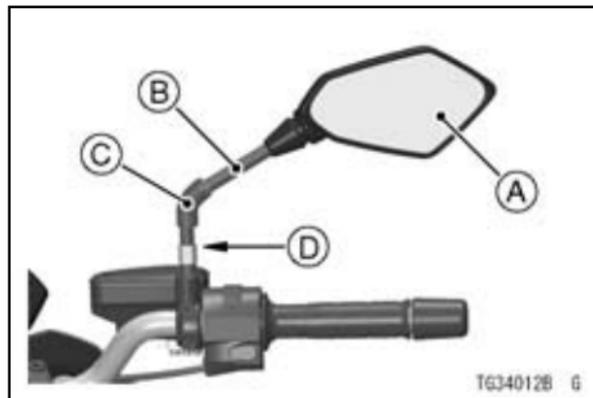
48 各部の取り扱い方

バックミラー

乗車位置から後方の安全を十分確認できる位置にミラーを合わせます。

バックミラーの調整の仕方

- ミラー部を動かして微調整をします。
- ミラー部で十分に調整できない場合はラバーブーツをはずし、ロックナットをゆるめてステアを回して調整してください。



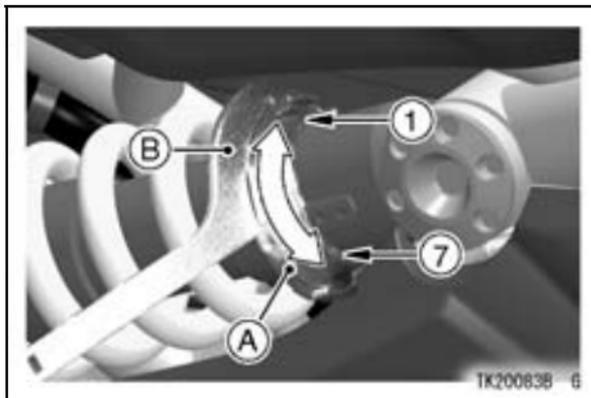
- A. ミラー
- B. ステア
- C. ラバーブーツ
- D. ロックナット

サスペンションセッティング

リヤショックアブソーバのスプリングの初期荷重の調整を各自の好みや運転の状態、路面、積荷の状態に応じて調整できます。

スプリングの初期荷重の調整

スプリングの初期荷重の調整は、リヤショックアブソーバのアジャスティングナットを回すことにより調整できます。



- A. アジャスタ
B. フックレンチ(車載工具)

1名標準値	4段
調整範囲	1段(弱い)～7段(強い)

リヤショックアブソーバの取り扱い方



警告

リヤショックアブソーバのガスタンクには、高圧の窒素ガスを封入しております。必ず下記の注意を守ってください。

- リヤショックアブソーバを火中に投棄しないでください。もし火中に投棄すると爆発が起こり、危険です。
- リヤショックアブソーバに穴を開けないでください。もし、穴を開けるとオイルが吹き出し、危険です。

要点

- ガスタンクバルブへの加圧は行わないでください。
- リヤショックアブソーバを廃棄するときは、ブライト取扱店にお申しつけください。

燃料の補給

ガソリンの補給



警告

ガソリンは引火性が高く火災の原因となることがあります。次のことを必ず守ってください。

- タバコ等火気を近づけないでください。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 給油は必ず風通しのよい屋外で行ってください。



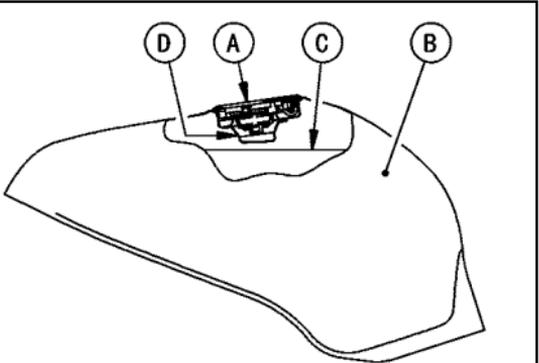
警告

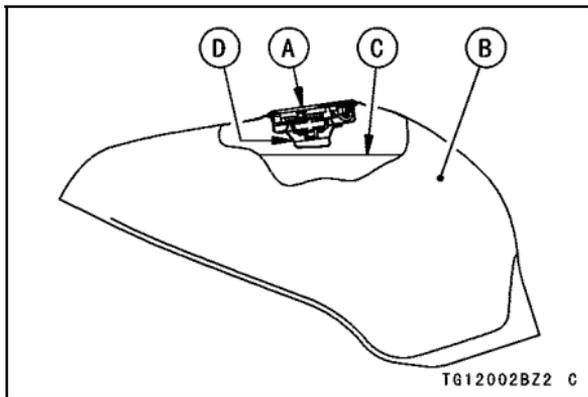
身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があります。

次のことを必ず守ってください。

- タンクキャップを開ける前に車体また、給油機等の金属部分に触れて身体の静電除去を行ってください。
- タンクキャップを開ける等、給油機の操作は必ず、静電気の除去を行った人お一人で行ってください。
- 給油口に他の人を近づけないでください。

- キーホールカバーを引き上げます。
- 燃料タンクキャップのロックにイグニションキーを差し込み右に回してタンクキャップを開けます。

- ガソリンを給油します。ガソリンは注入口にあるレベルプレートの下端以上入れず、のように少し控え目に入れてください。



- A. 燃料タンクキャップ
- B. 燃料タンク
- C. トップレベル
- D. レベルプレート

注意

必ず無鉛ガソリンを使用してください。
 燃料を補給するときは、必ず無鉛ガソリンであることを確認してから行ってください。
 高濃度アルコール燃料を使用しないでください。
 高濃度アルコール燃料を使用すると、エンジンや燃料系の部品を損傷させる原因となります。
 粗悪ガソリンまたは燃料に不適切な添加剤を使用しないでください。
 粗悪ガソリンまたは不適切な添加剤を使用すると、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。

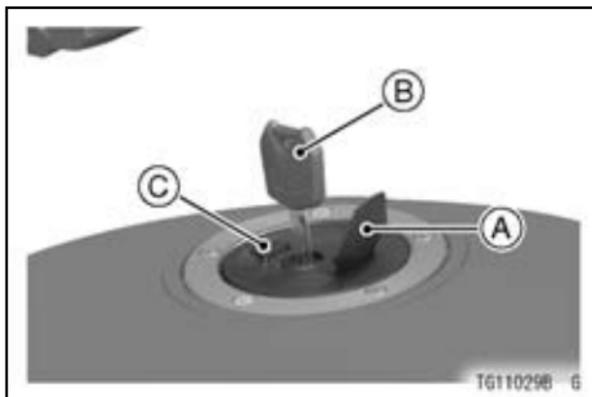
タンク容量: 15.5 L

使用燃料: 無鉛レギュラガソリン

- タンクキャップを閉じるときは、イグニッションキーをキャップに差し込んだ状態で、キャップを手で押し下げます。
- キーをLOCKの位置に回して抜きます。

52 燃料の補給

- キーホールカバーを閉めます。



- A. キーホールカバー
- B. イグニションキー
- C. 燃料タンクキャップ

要点

- タンクキャップはイグニションキーを差し込んでいないとロックできません。また、キャップが確実にロックされていないとキーは抜けません。

警告

ガソリンをレベルプレートの下端以上入れると、走行中にガソリンが膨張してタンクキャップのブリーザ孔からにじみ出ることがあります。

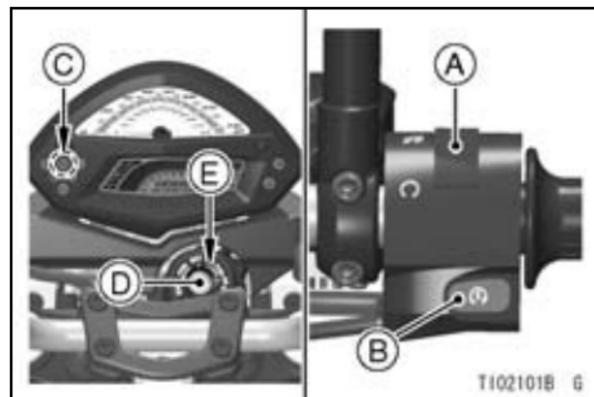
燃料タンクキャップは確実に閉めてください。

ガソリンがこぼれた場合は、布などで完全に拭きとってください。

正しい運転操作

エンジンのかけ方

1. エンジンストップスイッチが  の位置になっているか確認します。
2. イグニションスイッチを“ON”の位置にします。
3. トランスミッションをニュートラルにします。ニュートラルに入っているかどうかニュートラルインジケータライトで確認します。



- A. エンジンストップスイッチ
- B. スタータボタン
- C. ニュートラルインジケータライト
- D. イグニションスイッチ
- E. ONの位置

54 正しい運転操作

4. スロットルグリップを閉じ、スタートボタンを押します。

要点

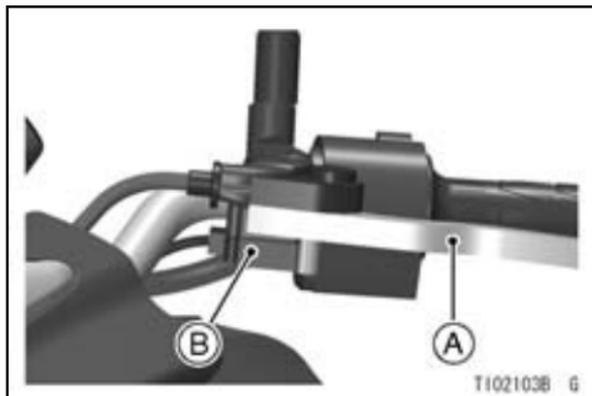
- この車には、転倒した際、自動的にエンジンを止めるための転倒センサを採用しています。もし転倒したときは、FI(フューエルインジェクション)警告灯が点灯します。再度エンジンを始動させるには車体を垂直に起こしたあと、一旦イグニションスイッチを“OFF”の位置にして、それから再度イグニションスイッチを“ON”の位置にします。

警告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれており、風通しの悪い場所でエンジンをかけるとガス中毒を起こすおそれがあります。エンジンの始動、暖機運転は風通しの良い場所で行ってください。

要点

- スタータロックアウトシステムにより、サイドスタンドが降りているときは、ニュートラル以外でエンジンはかかりません。



- A. クラッチレバー
- B. スタータロックアウトスイッチ

要点

- スタータボタンを押して5秒以内にエンジンが始動しない時は、一旦イグニションスイッチをOFFの位置にし、10秒くらい休んでから再度イグニションスイッチをONの位置にしてスタータボタンを押してください。これはバッテリー電圧を回復させるためです。
- エンジンが始動してスタータボタンを放すと、ヘッドライトが点灯します。通常はヘッドライトをロービームにして走行してください。

要点

- 不必要な空ふかしはしないでください。燃料の無駄使いになるばかりでなく、エンジンに悪影響を与えます。
- アイドリング状態で長時間放置すると、充電不良を起こし、バッテリーに悪影響を及ぼします。

ならし運転

最初の1 600 kmを走行するまでは、下表のエンジン回転数以下でならし運転をしてください。ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

走行距離	エンジン回転数
0 ~ 800 km	4 000 rpm
800 ~ 1 600 km	6 000 rpm

要点

- 不必要な空ふかし、急加速、急減速はつしんでください。
- 法定速度を守って走行してください。

56 正しい運転操作

走り方

1. サイドスタンドが完全に戻っているかを確認します。

要点

- サイドスタンドが降りたままギヤを入れると、サイドスタンドスイッチとスタータロックアウトスイッチが働いて、自動的にエンジンが停止します。

警告

走行中はサイドスタンドを操作しないでください。走行中にサイドスタンドを操作するとエンジンが停止し、思わぬ事故の原因となることがあります。

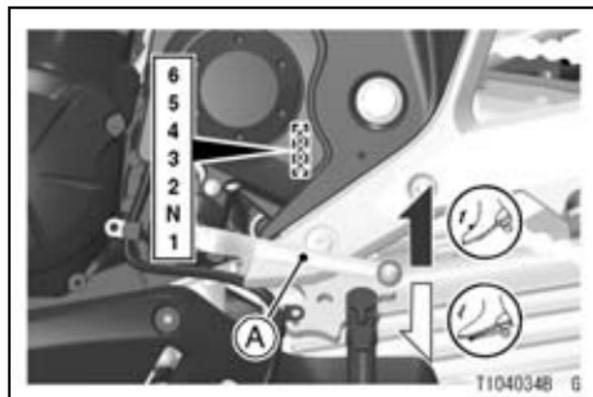
注意

サイドスタンドがスムーズに作動しないときは取り付け部に注油を行ってください。

2. クラッチレバーを握り、シフトペダルを操作してギヤを1速に入れ、静かに発進します。

要点

- 車が静止状態の時は、ニュートラルから1速にしか入りません。
- 3. 車のスピードに応じてギヤチェンジをします。ギヤチェンジは6段リターン式です。



A. シフトペダル

要点

- ギヤチェンジは、スロットルグリップを一旦戻し、クラッチレバーを完全に握ってから行ってください。
- チェンジ操作は、ペダルにコツンと感じるところまで確実に行ってください。
- チェンジ操作が堅く感じられる時は、シフトレバーの外周部とシフトペダルのピボット部に注油を行ってください。
- 不必要な急加減速をつつしんで走ることが、燃料の節約と車の寿命を延ばします。

注意

無理なチェンジ操作やシフトペダルに足を乗せたままでの走行は、チェンジ機構やクラッチを痛める原因となります。走行中に異常を感じたときは、ただちにブライト取扱店で点検をお受けください。法定速度を守って走りましょう。

シフトダウンの仕方

追い越しするときなど強力な加速が必要なときは、シフトダウン(低速ギヤにチェンジ)をすると加速力が得られます。あまり高い速度で行うとエンジンの回転が上がりすぎて、エンジン、ミッションに悪影響を与えます。各ギヤ共、5 000 rpm以下で行ってください。



警告

急激なシフトダウンは、走行安定性をそこない転倒などの原因となりますので行わないでください。

58 正しい運転操作

ブレーキの使い方

- ブレーキは前後輪同時に使しましょう。

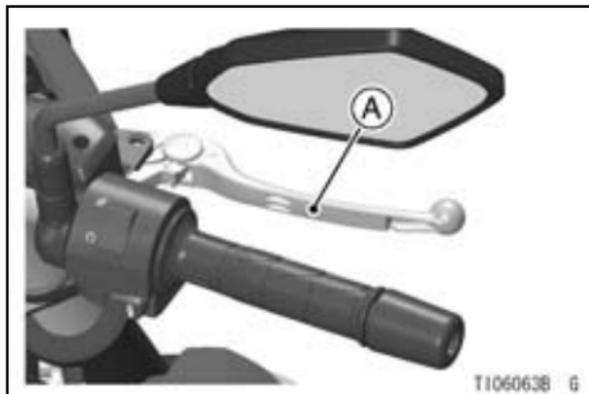
警告

前輪または後輪ブレーキだけを使うと、横すべりや転倒の原因となります。必ず前後ブレーキを同時にかけてください。

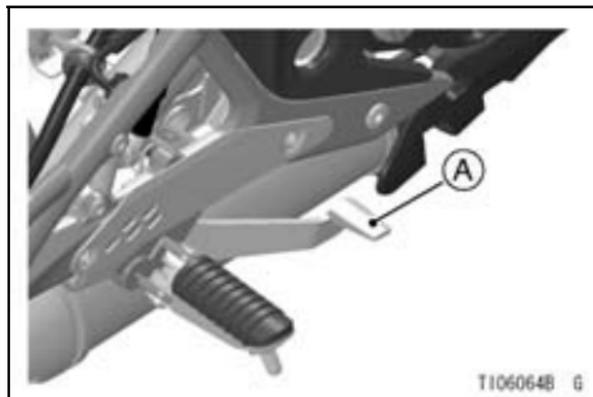
- 不必要な急ブレーキはかけないでください。

警告

急ブレーキをかけると横すべりや転倒の原因となる場合があります。不必要な急ブレーキは避けましょう。



A. フロントブレーキレバー



A. リヤブレーキペダル

要点

- 雨の日や路面が濡れているところ、雪道や凍った道路では路面が滑りやすく、晴天時よりも制動距離が長くなります。スピードを落として、余裕をもって運転してください。
- 長い坂道を下る時などに連続してブレーキを使用すると、ブレーキ部の温度が上昇し

ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。このようなときはエンジンブレーキと断続的なブレーキ操作を併用してください。

- 雨の日や水たまりを走行した後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。ブレーキの効きが悪いときは、周囲の交通状況に十分注意して低速で走行しながら、ブレーキの効きが回復するまでブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りを乾燥させてください。

エンジンブレーキ

走行中、スロットルグリップを戻したときにかかる制動力です。低速ギヤほどエンジンブレーキはよく効きます。

60 正しい運転操作

エンジンの止め方

- スロットルグリップを全閉にします。
- トランスミッションをニュートラルにします。
- イグニションスイッチを“OFF”の位置にします。

エンジンの非常停止

何らかの原因で、エンジンがスロットルコントロールを失うと非常に危険な状態に陥ることがあります。このような非常時において、イグニションスイッチで停止できないときはエンジンストップスイッチを  の位置にしてください。ハンドルから手をはなさずにエンジンを停止することができます。

駐車の方法

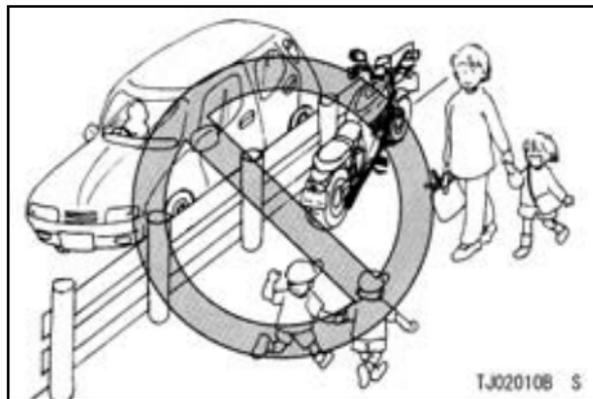
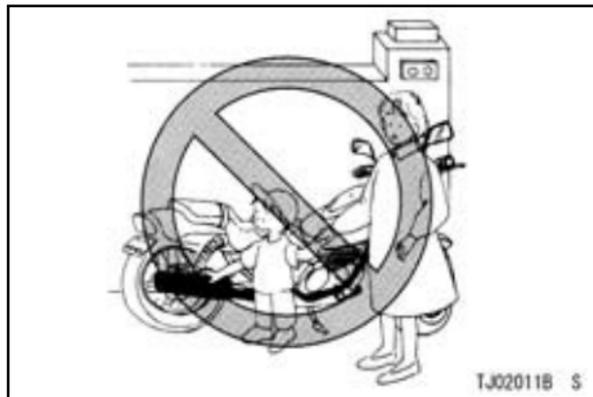
- 車を止め、トランスミッションをニュートラルにします。
- イグニションスイッチを“OFF”の位置にしてエンジンを止めます。
- サイドスタンドを使って、水平でしっかりとした場所に駐車します。



警告

坂道、砂利道やでこぼこな所に駐車すると、スタンドが不安定になり転倒するおそれがあります。

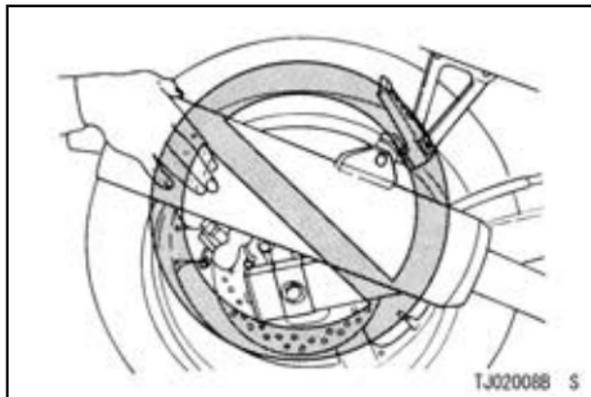
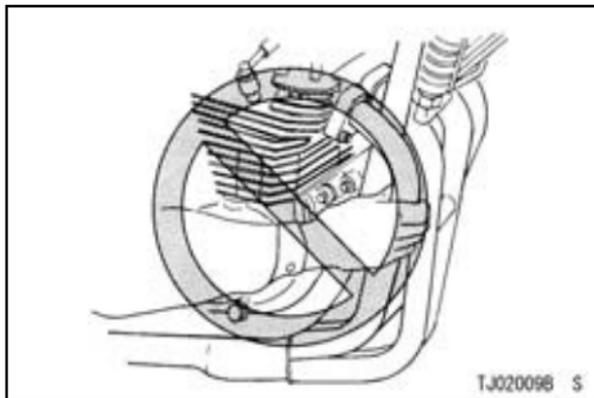
- 交通の邪魔にならない安全な場所に駐車しましょう。
- マフラ、エンジンが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車しましょう。やむをえず子供が遊ぶ施設や人通りの多いところに駐車するときは他の方がマフラ、エンジンに触れないように配慮してください。



- エンジン回転中や停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンに触れないでください。

⚠ 警告

熱くなっているマフラ、エンジンに触れるとやけどをすることがあります。エンジン回転中や停止後しばらくの間はマフラ、エンジンに触れないでください。他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。



- ガレージまたはその他の建物の内部に駐車する時は、風通しが良く、火気のない所にします。

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。

- ステアリングをロックします。盗難予防のため、車から離れるときは必ずステアリングをロックし、キーを抜いてお持ちください。

- 夜間、道路沿いに短時間駐車する場合は、イグニションスイッチをP(駐車)の位置にします。**キーを必ず抜いてお持ちください。**

注意

長時間P(駐車)の位置にしておきますと、バッテリーあがりを起こすおそれがあります。

点検整備について

法令で定められた点検整備

お車を安全かつ快適にご使用いただくため、法令により日常点検と定期点検整備を行うことが義務づけられています。必ず実施してください。

1. 日常点検

走行距離や運行時の状態などから判断した適切な時期に実施する点検です。

2. 定期点検整備

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。

二輪車については1年点検と2年点検があります。

なお、詳細についてはメンテナンスノートをご覧ください。

製造元が指定する点検整備

1. 1か月目(または1 000 km)点検整備

登録日から1か月目または1 000 km走行時点に行う点検です。
お買いあげいただいたブライト取扱店にてお受けください。

2. 製造元指定点検整備

法令で定められた定期点検整備項目のほかに、製造元が指定する定期点検整備項目があります。所定の時期になりましたら、法令で定められた定期点検整備と同時に実施してください。また、総排気量が251 cm³以上の車は初回3年目、以降2年ごとの継続検査(車検)を受けなければ、引き続き使用することができません。車検有効期間の満了前に必ずお受けください。なお、点検整備の詳細についてはメンテナンスノートの「お車を安全、快適にご使用いただくために」をご覧ください。

簡単な整備

ここでは、点検の結果、清掃、調整、交換等の整備が必要となった場合、通常行われることの多い代表例について、その整備の実施方法を述べています。

警告

整備は安全のためご自身の知識、技量の範囲内で行ってください。

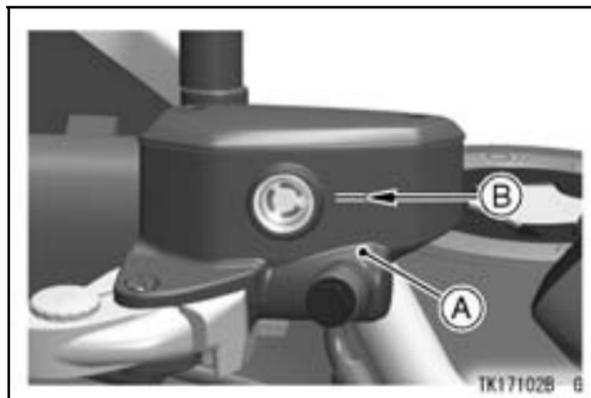
難しいと思われる内容、あるいは整備後に何か不審を感じられた場合はブライト取扱店にご相談ください。

整備するときは、安全に十分注意してください。

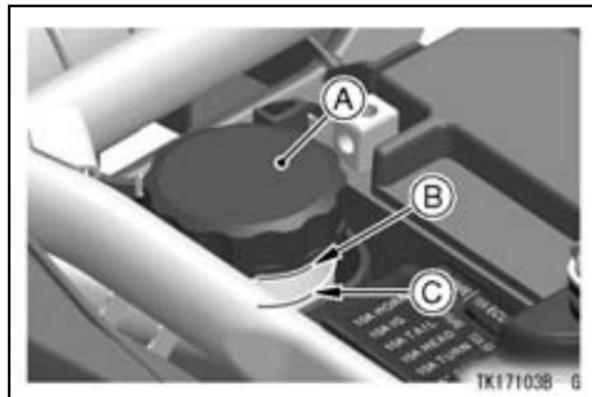
- 場所は、平坦で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジンを停止し、イグニッションキーを抜いた状態で行ってください。
- 排気ガスには一酸化炭素等の有害な成分が含まれています。エンジンをかけた状態で点検整備を行うときは、通気性の良い場所で行ってください。
- エンジン停止後しばらくの間は、エキゾーストパイプ、マフラ、エンジン、ラジエータ等が熱くなっています。触れてやけどをしないようにしてください。
- 適切な工具を使用してください。もし、不適切な工具を使用して整備作業を行うとけがをするおそれがあります。

ブレーキの液量点検

- 平坦な場所で車を垂直にし、リザーバタンクを水平にします。
- リザーバタンク内のブレーキの液量がロア (LOWER) レベル以上の範囲にあるかを点検します。



- A. フロントブレーキリザーバ
B. ロア (LOWER) レベルライン



- A. リヤブレーキリザーバ (シート下)
B. アップ (UPPER) レベルライン
C. ロア (LOWER) レベルライン

要点

- もし液面がロア (LOWER) レベル以下の場合は、ブライト取扱店にご相談ください。

⚠ 警告

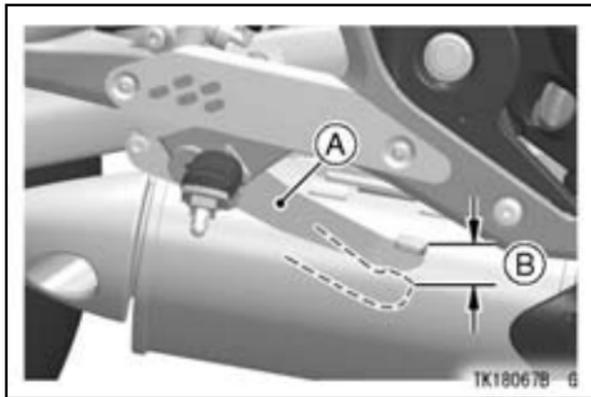
液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。ブレーキ液が早く減少するようでしたらブレーキ系統からの液漏れが考えられますので、ブライト取扱店で点検をお受けください。ブレーキ液は安全のため、2年毎の交換をおすすめします。

注意

ブレーキ液の変質を防ぐため、銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。ブレーキ液は塗装をいためますので、部品類に付着させないでください。もし付着したら、すぐに洗い流してください。

ブレーキライトスイッチの調整

リヤブレーキライトスイッチはブレーキペダルを約10 mm踏み込んだ時にブレーキライトが点灯するか点検します。



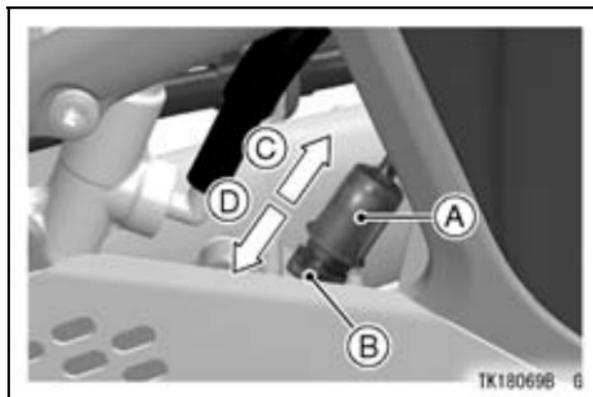
A. ブレーキペダル

B. 10 mm

- スイッチを指で押さえ、調整ナットを回して調整します。

要点

- スイッチの取り付け位置が高くなれば早く点灯し、低くなれば遅く点灯します。



- A. リヤブレーキライトスイッチ
- B. 調整ナット
- C. 早く点灯
- D. 遅く点灯

注意

リヤブレーキライトスイッチを調整する際、配線を損傷させないためにスイッチ本体を回さないようにしてください。

フロントブレーキをかけた時もブレーキライトが点灯するか点検します。

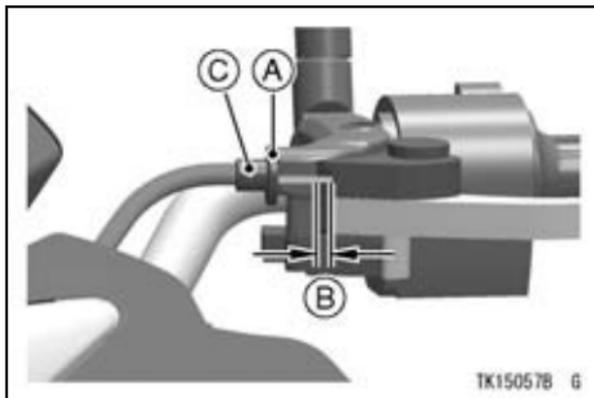
もし、異常があればブライトレ取扱店で点検をお受けください。

70 簡単な整備

クラッチレバーの遊びの調整

クラッチレバーの遊びはクラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、クラッチレバーとレバーホルダとの間で2～3 mmあるのが正規です。

遊びの調整は、クラッチレバー側のアジャスタを回して行います。



- A. ロックナット
- B. 遊び2～3 mm
- C. アジャスタ

- クラッチレバー側のアジャスタで調整できない時は、ブライト取扱店にご相談ください。

⚠ 警告

やけどをしないため、調整の間は、マフラやエンジンに触れないようにしてください。

- 調整後、ナットを締め付けます。

⚠ 警告

走行中に調整は、行わないでください。クラッチアウトケーブルがクラッチレバーのアジャスタの穴の縁に引っ掛かっていると、後でアジャスタの穴にすべり込み、クラッチが切れなくなる事があります。

要点

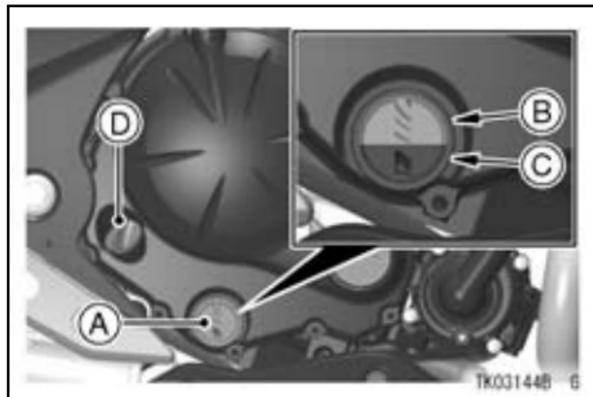
- 調整後にエンジンをかけ、チェンジ操作がスムーズであるか、エンストまたは飛び出しがないかを確認します。
- 1か月に一度はクラッチケーブルの取付部に注油を行ってください。

エンジンオイルの補給

- 平坦な場所で、エンジンを2～3分間アイドル回転で暖機し、エンジンを止めます。

要点

- 走行直後でエンジンが十分に暖機していればアイドル回転は不要です。
- 車体を垂直にし、エンジンを止めて2～3分後に、オイル量がオイルレベルゲージのアップレベルとロアレベルの間にあることを確認します。
- オイル量がロアレベルに近ければ、オイルフィラキャップをはずし、オイルレベルゲージで確認しながらアップレベルとロアレベルの中間まで、エンジンオイルを補給します。



- A. オイルレベルゲージ
- B. アップレベル
- C. ロアレベル
- D. オイルフィラキャップ

72 簡単な整備

＜推奨オイル＞

カワサキ純正4サイクルオイル

R4 SJ 10W-40 JASO MA

S4 SG 10W-40 JASO MA

T4 SF 10W-40 JASO MA

または

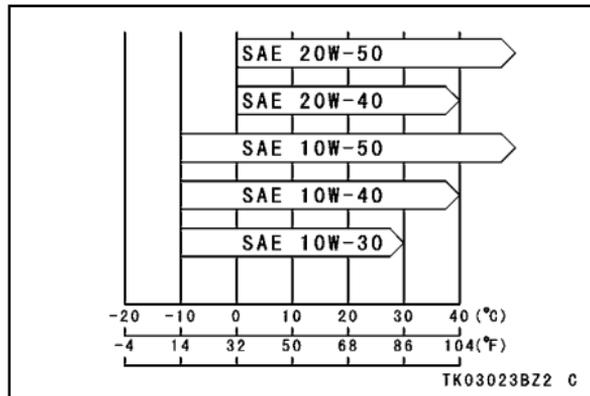
**API SG、SH、SJ、SLまたはSM (JASO MA、
MA1またはMA2適合)**

SAE 10W-40

要点

- クラッチの滑りやエンジンの性能、耐久性に悪影響を与えることがあるので、エンジンオイルに摩擦を低減させる添加物は加えないでください。

エンジンオイルの粘度は、次の図を参考にして使用する地域の外気温によって使いわけてください。なお、上記の推奨オイルと同じAPI分類とSAE規格のエンジンオイルでも、それぞれオイルの特性等が微妙に異なっているため、この車には適合しない場合があります。



<エンジンオイル交換時期>

初回:	1 000 km時
2回目:	6 000 km時
以後:	6 000 km毎

<エンジンオイル量>

オイルフィルタを取り外さなかった時	1.7 L
オイルフィルタを取り外した時	1.9 L
分解時	2.4 L

<オイルフィルタ交換時期>

初回:	1 000 km時
2回目:	18 000 km時
以後:	18 000 km毎

要点

- 補給するときには、オイル注入口からごみなどが入らないようにしてください。
- オイル量は、規定範囲の上限(アツパレベル)を超えないようにしてください。



警告

エンジン暖機運転後しばらくの間は、エキゾーストパイプ、マフラ、エンジンが熱くなっています。触れてやけどをしないようにしてください。
オイルをこぼしたときは、完全に拭きとってください。

注意

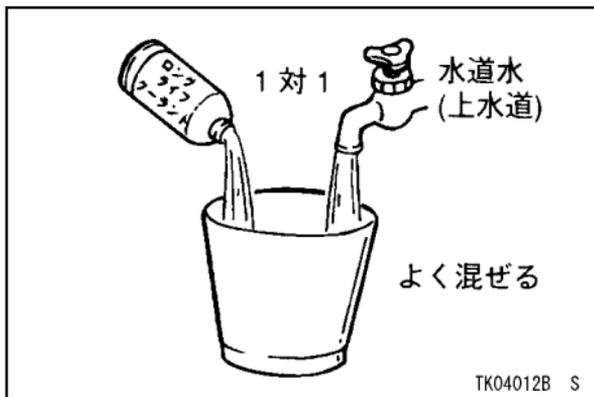
銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質のオイルを使用しないでください。変質して故障の原因になることがあります。
油脂類の廃液は法令で適切な処理を行うことが義務づけられていますのでブライト取扱店にご相談ください。

74 簡単な整備

冷却液

冷却液の作り方

カワサキ純正ロングライフクーラントと水道水(上水道)を1:1に混ぜ合わせます。



警告

クーラントには毒性があります。取り扱いには十分注意してください。

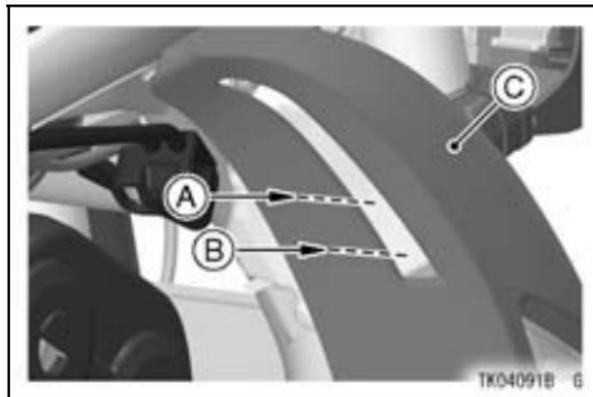
- 皮膚や衣類についての場合すみやかに水で洗ってから、セッケン水で洗ってください。
- 目に入った場合水で十分洗い流してから、医師の診察を受けてください。
- 飲んだ場合直ちにおう吐させ、医師の診察を受けてください。

注意

混合または補充する水は水道水(上水道)を使用してください。井戸水や塩分を含む天然水は使用しないでください。

冷却液の点検

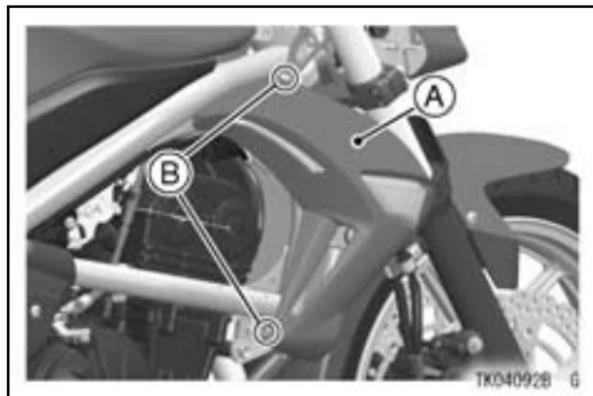
平坦な場所で車を垂直にしてリザーブタンクの冷却液の量がF (FULL) マークラインとL (LOW) マークラインとの間にあるかを点検します。



- A. F (FULL) マークライン
- B. L (LOW) マークライン
- C. 右サイドカバー

冷却液の補給

- 右サイドカバーのボルトをはずして、右サイドカバーを取り外します。

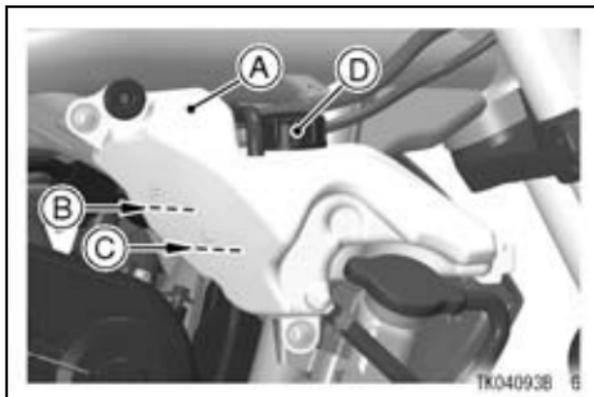


- A. 右サイドカバー
- B. ボルト

- ターンシグナルリードコネクタをはずしません。

76 簡単な整備

- 液面が**L (LOW)**マークラインより下がっている場合は、リザーブタンクのキャップをはずし、タンクの**F (FULL)**マークラインまで冷却液を補給します。



- A. リザーブタンク
- B. F (FULL) マークライン
- C. L (LOW) マークライン
- D. タンクキャップ

要点

- 冷却液は**F (FULL)**マークラインを超えて入れないでください。

⚠ 警告

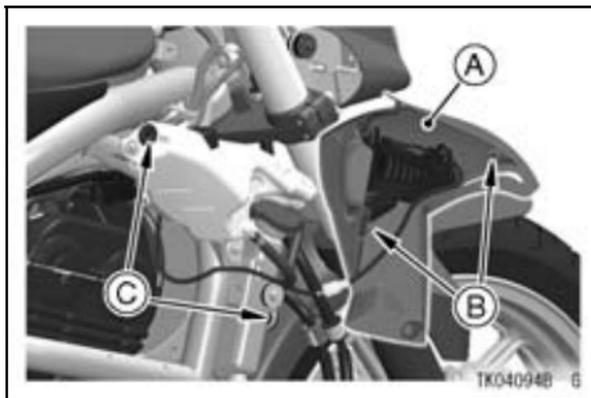
冷却液の温度が高いとき、急にラジエーターキャップをはずすと蒸気や熱湯が吹き出し危険です。水温が下がってから、布などでキャップを包み、静かに開けてください。

- 冷却液補給後はキャップを戻します。
- ターンシグナルライトコネクタをつなげます。

- 右サイドカバーを取り付けます。

要点

- カバーを取り付けるときは、カバーの突起部を穴に差し込みます。



- A. 右サイドカバー
- B. 突起
- C. 穴

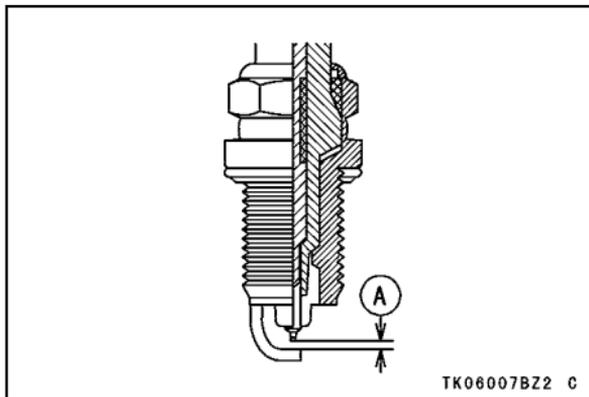
注意

冷却液の減り具合が著しいときは、ラジエータ本体、ホースなどからの液漏れが考えられますのでお買いあげのブライト取扱店にご相談ください。

78 簡単な整備

スパークプラグ

指定スパークプラグはNGK CR9EIA-9です。プラグギャップは0.8～0.9 mm、締め付けトルクは15 N·m (1.5 kgf·m)です。



A. 0.8 ~ 0.9 mm

注意

スパークプラグを交換するときは、指定スパークプラグ以外は使用しないでください。

要点

- スパークプラグの取り付け、および取り外しはお買いあげのブライト取扱店で行ってください。

エアクリーナエレメントの清掃・交換

エアクリーナエレメントが詰まると吸入空気量不足、燃料消費量増加、出力低下、プラグかぶり等の原因となります。

エアクリーナエレメントの清掃、交換はお買いあげのブライツ取扱店で行ってください。

要点

- 著しくほこり等の多い場所を走行した場合は、定期点検期間より早めに点検、および交換を行ってください。

オイルの排出

- エンジンの後方にあるホースに、エアクリーナハウジングからの水やオイルが溜っていないか点検します。



A. ドレンホース

B. プラグ

- ホースに水やブリーザオイルが溜まっていたら、ホース下端のプラグをはずして排出します。
- 排出後、プラグは必ず元通りに取り付けます。


警告

プラグは必ずしっかりと取り付けてください。もしプラグが、しっかりと取り付いていないとオイルが漏れてタイヤに付着し、タイヤが滑りやすくなって事故の原因となります。

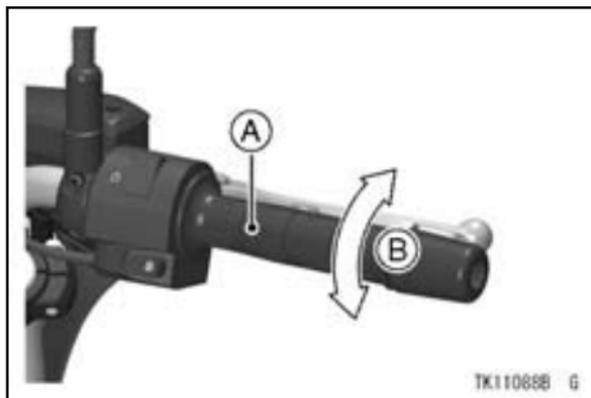
エレメントの交換

- 老化、損傷があれば再使用は行わないでください。

スロットルケーブル遊びの調整

ケーブルがたるんでいると、スロットルの開度に対してエンジンレスポンスが遅れます。また、ケーブルが張りすぎていると、グリップに遊びがなくなり、操作しにくくなります。

スロットルグリップに2～3 mmの遊びがあるのが正規です。もし、スロットルグリップの遊びが正規でない場合は、スロットルケーブルを調整します。

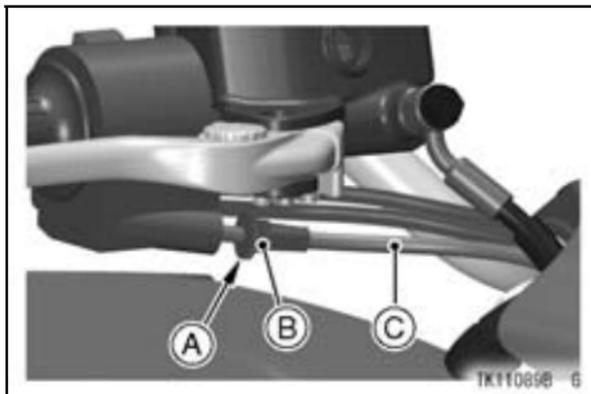


A. スロットルグリップ

B. 2～3 mm

調整

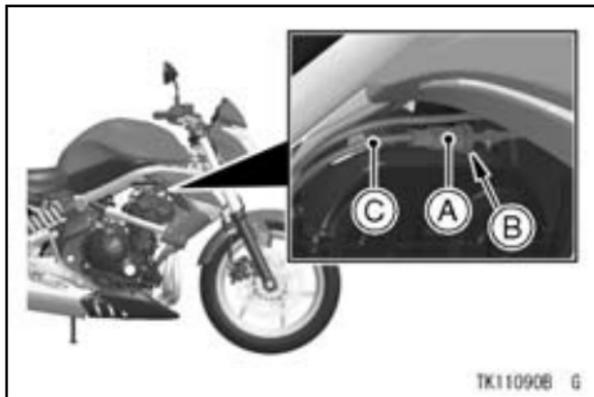
- ロックナットをゆるめます。
- アジャスタを回して調整します。
- ロックナットをアジャスタの方へ締め付けます。



- A. ロックナット
- B. アジャスタ
- C. 開き側ケーブル

- 上側のアジャスタで調整できない場合は、下側のアジャスタを使用します。
- スロットルグリップ側のロックナットをゆるめ、アジャスタを一杯ねじ込み、ケーブルに遊びを十分持たせます。ロックナットを締め付けます。
 - ケーブル下側のロックナットをゆるめ、両方のアジャスタを一杯ねじ込み、ケーブルに遊びを十分持たせます。
 - グリップを全閉位置で保持します。
 - ケーブル下側の閉じ側ケーブルのアジャスタをねじ戻し、閉じ側ケーブルが張ったところでロックナットを締め付けます。

82 簡単な整備



- ケーブル下側の開き側ケーブルのアジャスタを回して、スロットルグリップの遊びを調整します。
- ロックナットを締め付けます。

- A. アジャスタ
- B. ロックナット
- C. 閉じ側ケーブル

要点

- 閉じ側ケーブルを押して張り具合を確認します。

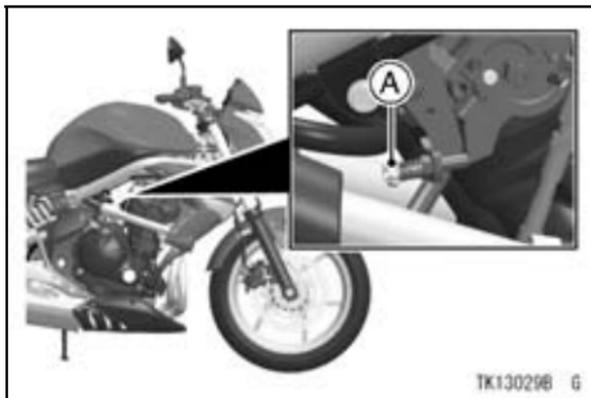
アイドリング回転速度の調整

アイドリング回転速度の調整はアイドルアジャスティングスクリューで行います。

- 十分に暖機運転をします。
- アイドルアジャスティングスクリューを回して調整します。

[アイドリング回転速度]

標準値： 1 250 ~ 1 350 rpm



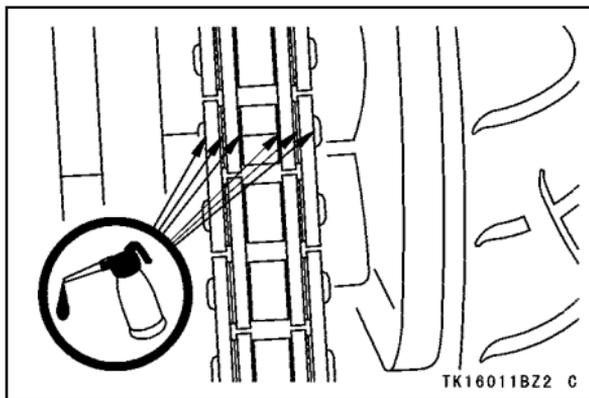
A. アイドルアジャスティングスクリュー

- 数回空ぶかして、アイドリング回転速度に変化がない事を確認します。必要ならば再調整します。

ドライブチェーン

給油

- リヤホイールを浮かした状態で、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥、汚れを柔らかいブラシなどで落とし、カワサキ純正チェーンクリーナを使用して洗浄します。
- 乾燥後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら給油を行います。オイルがチェーン各部によく行きわたるようにチェーンローラの両側に給油してください。



注意

オイルは、カワサキ純正チェーンオイルを使用してください。
この車のチェーンは、ゴムのシールを使用しています。ゴムのシールの損傷を防ぐためスチーム洗浄は行わないでください。
シンナ、ガソリン等の揮発性溶剤、ワイヤブラシを使用して洗浄しないでください。ゴムのシールが損傷します。

要点

- 雨天走行後、あるいは洗車後も給油してください。

警告

給油後、余分なオイルは拭きとってください。

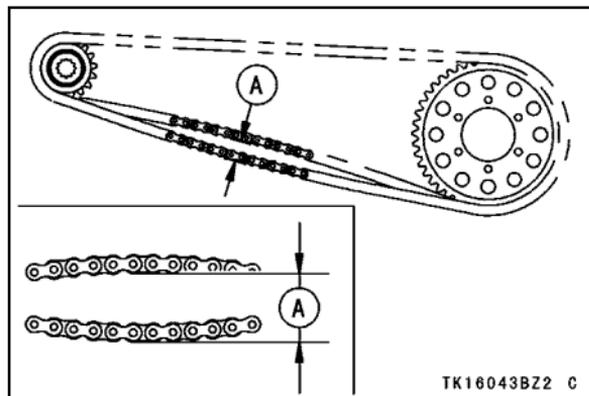
たるみ点検

要点

- チェーンが汚れていたり、乾いている場合は、洗浄および給油します。
- サイドスタンドを立てます。
- 後輪を回し、たるみの最も少ない位置で、前後スプロケットの中央でたるみ(振れ幅)を測定します。使用範囲外の場合は、調整してください。

[ドライブチェーンのたるみ]

使用範囲: 25 ~ 35 mm

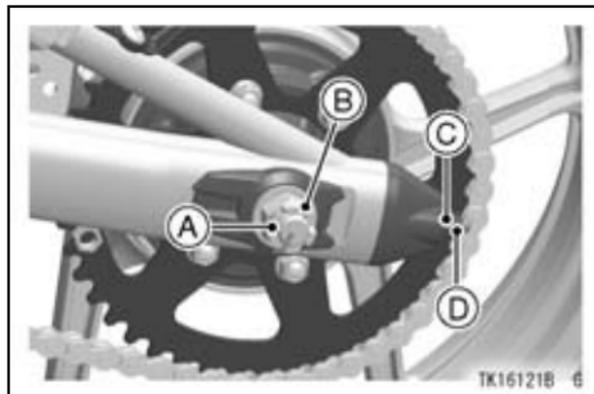


A. 25 ~ 35 mm

86 簡単な整備

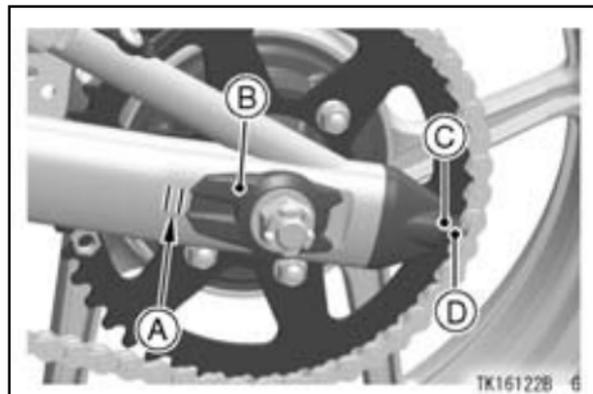
たるみ調整

- リヤアスルナットから割りピンを取り外し、リヤアスルナットをゆるめます。
- 左右のチェーンアジャスタロックナットをゆるめます。



- A. リヤアスルナット
- B. 割りピン
- C. チェーンアジャスタ
- D. チェーンアジャスタロックナット

- チェーンアジャスタを回して、たるみを標準値にします。
- ホイールアライメントインジケータの切り込みとスイングアームの目盛りを左右同じ位置に合わせます。



- A. 目盛り
- B. インジケータ
- C. チェーンアジャスタ
- D. ロックナット

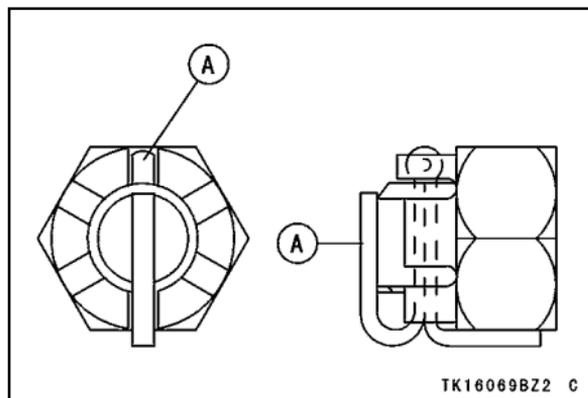


警告

左右のアライメントインジケータの位置がずれていると、チェーンやsprocketが異常に磨耗したり、操縦安定性を失うおそれがあります。

- リヤアクスルナットをしっかりと締め付けます。
- 左右のチェーンアジャスタロックナットをしっかりと締め付けます。
- 後輪を回し、たるみの最も少ない位置で再度たるみを点検します。必要があれば再調整します。

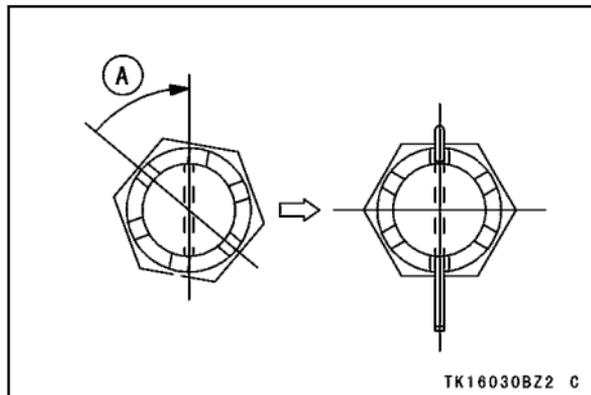
- リヤアクスルシャフトとアクスルナットに新しい割りピンを通します。そして割りピンの両端を折り曲げます。



A. 割りピン

要点

- 割りピンを差し込むときに、アクスルシャフトの穴とアクスルの穴が一致しない場合は、アクスルナットを時計回り(締め付け方向)に回します。
- 締め付け角度は30度以内にしてください。
- 最も近い穴が過ぎた時は、ナットを一度ゆるめてから再度締め付けてください。



A. 時計回りに回す


警告

アクスルナットを確実に締め付けなかったり、割りピンやクリップを取り付けなければ操縦安定性を失うおそれがあります。

- リヤブレーキの効き具合を点検します。

タイヤ

車を安全に運転するには、タイヤを良い状態に保つことが重要です。

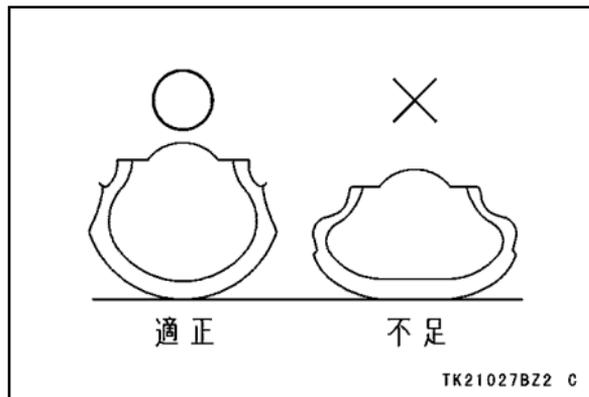


警告

空気圧が適正でなかったり、タイヤに亀裂や、損傷、異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。

空気圧

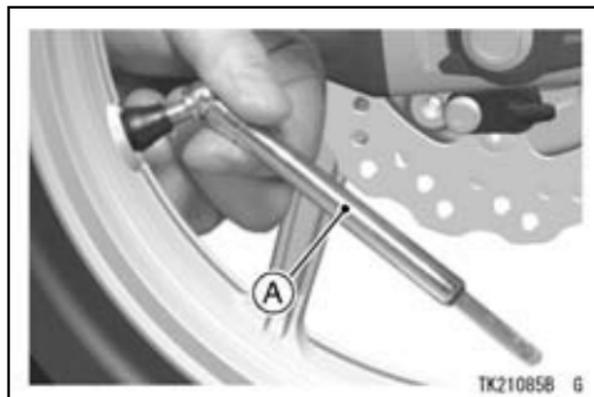
常に適正な空気圧を保ってください。タイヤの空気圧は、走行前のタイヤが冷えているときに、タイヤの接地部のたわみ状態により空気圧が適正であるかを点検します。



90 簡単な整備

要点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目ではわかりにくいものもあるため、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 走行後のタイヤが温まっている状態ではタイヤの空気圧は高くなる場合がありますので、必ず冷えた状態で点検してください。



A. タイヤゲージ

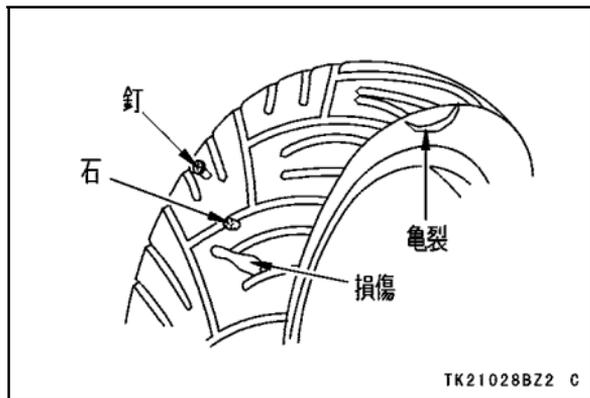
		前輪	後輪
タイヤ空気圧		225 kPa (2.25 kgf/cm ²)	250 kPa (2.5 kgf/cm ²)
タイヤサイズ		120/70 ZR17 M/C (58W)	160/60 ZR17 M/C (69W)
指定 タイヤ	ダンロップ	SPORTMAX ROADS- MART CQ G	SPORTMAX ROADS- MART G

要点

- この車の最大積載荷重は、運転者、同乗者、荷物、アクセサリ部品を含めて180 kg までです。

亀裂と損傷

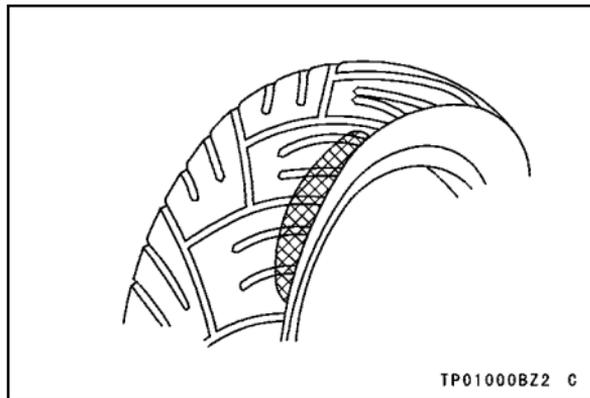
タイヤの全周に著しい亀裂や損傷がないか点検します。また、タイヤの全周にわたり、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。



異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

タイヤが異常に摩耗しているときは、ブライト取扱店にご相談ください。



要点

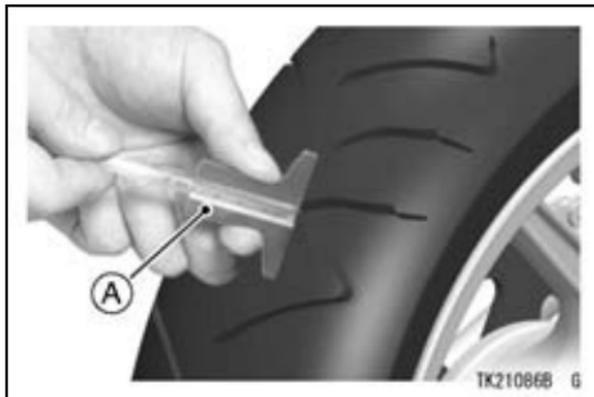
- 道路の縁石等にタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越えたときは、必ず点検してください。

92 簡単な整備

溝の深さ

コーナリング、操縦安定性、更に安全走行のため、二輪車のタイヤは溝の深さが前輪**1 mm**、後輪**2 mm**以下になりましたら交換をおすすめします。

タイヤの交換は、お買いあげのブライト取扱店にご相談ください。



A. ディプスゲージ

警告

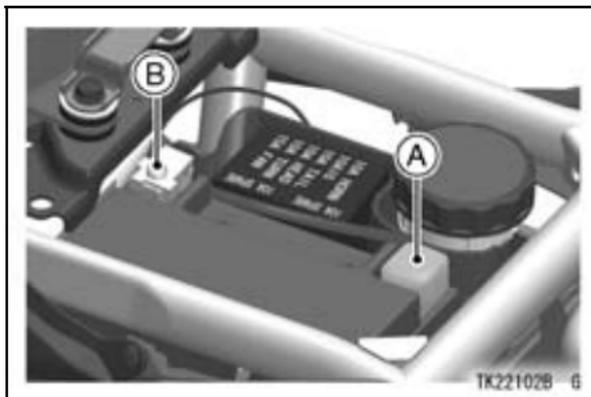
異なった種類のタイヤを使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の走行安定性に悪影響を及ぼしますので使用しないでください。

バッテリーターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食がある場合はバッテリーをはずして清掃します。

バッテリーの取り外しおよび取り付け方

- シートを取り外します。

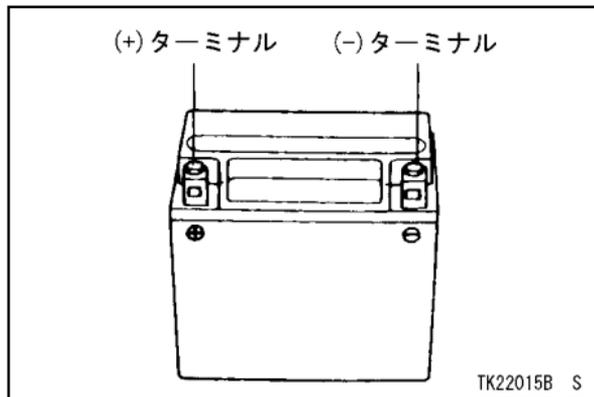


- A. (+)ターミナル
B. (-)ターミナル

- (-)のリード線、(+)のリード線の順にはずします。
- バッテリーを取り外します。
- バッテリーの取り付けは取り外しの逆順に行います。(+)のリード線を接続し、それから(-)のリード線を接続します。
- 取り外した部品を取り付けます。

バッテリーターミナル部の清掃

- ターミナル部に汚れや腐食があるときは清掃します。なお、ターミナル部が腐食して白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いで拭くとよく落ちます。
- ターミナル部の腐食が著しいものは、リード線をはずし、ワイヤブラシ、サンドペーパーで磨きます。
- 清掃、締め付け後は、ターミナル部にグリースを薄く塗っておきます。



警告

バッテリー液は、腐食性が大きく皮膚炎を起こしたり、金属を腐食させる等非常に危険です。新品のバッテリーにバッテリー液を注入する時、体、衣服、車体等に付着しないように十分注意してください。万一、目や皮膚等に付着した時はすぐに多量の水で、5分間(目の場合は15分間)以上洗浄して専門医の診察を受けてください。

警告

バッテリーは引火性ガス(水素ガス)を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発するおそれがあります。

- バッテリーの整備を行う時は、必ずエンジンを停止させてください。
- 作業中、バッテリーの(+)(-)端子が工具等により、ショートしないように注意してください。
- リード線をはずす場合は、(-)端子からはずしてください。また、取り付ける場合は(+)端子を先に取り付けてください。リード線に緩みが生じないよう確実に、接続してください。
- バッテリーにガソリン、オイル、有機溶剤等を付着させないでください。電層割れの原因になります。
- 子供の手の届くところにおかないでください。

注意

この車のバッテリーにはシール形バッテリーを使用しています。このバッテリーは寿命になるまで液の補充の必要はありません。密封栓をこじ開けて液の補充は絶対おやめください。

バッテリーを交換する場合は、必ず同形式のバッテリーをご使用ください。

使用済みのバッテリーを廃棄する場合はお買いあげのブライツ取扱店にご相談ください。

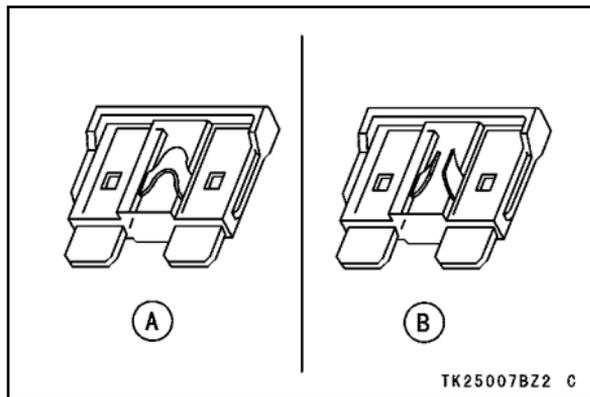
要点

- エンジンが始動しなかったり、ホーンの音が弱い、ヘッドライトが暗い等の場合は、バッテリーが放電しています。バッテリーの充電をブライツ取扱店で行ってください。

ヒューズの交換

ヒューズはシート下のヒューズボックスにあります。メインヒューズは左サイドカバーの裏にあるスタータリレーにあります。

ヒューズが切れたときは原因を調べてスペアヒューズと交換してください。



- A. 正常
- B. 切れた状態

96 簡単な整備

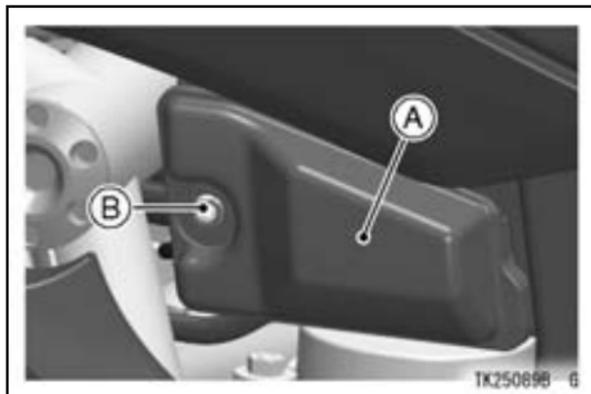
- シートをはずします。
- ヒューズボックスのカバーを開けます。
- 交換すべきヒューズを引き抜きます。スペアヒューズはヒューズボックス内にあります。



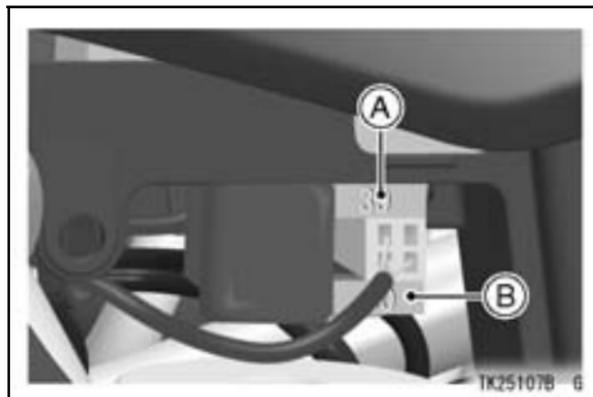
A. ヒューズボックス

メインヒューズ

- 左サイドカバーのボルトをはずし、左サイドカバーを取り外します。
- メインヒューズをスタータリレーから引き抜きます。



A. 左サイドカバー
B. ボルト



- A. メインヒューズ
- B. スペアヒューズ

⚠ 警告

指定容量を超えるヒューズ、針金、銀紙などは、配線の過熱、焼損の原因になりますので使用しないでください。

要点

- 交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、他の原因が考えられます。ブライツ取扱店にご相談ください。
- スペアヒューズを使用した場合は、なるべく早めに代替りのスペアヒューズを補充してください。

車のお手入れ

主な注意事項

- 洗車はエンジンとエキゾーストパイプ等が冷えているときに行ってください。
- シール部品、ブレーキパッド、タイヤにクリーナー等がかからないようにしてください。

注意

コンパウンド入りのワックス等で、塗装面や樹脂部品を強く磨くと、色むらあるいは傷が入るおそれがあります。

- ワックス、洗剤等はコンパウンドを含んでいないものをご使用ください。
- ガソリン、ブレーキ液および冷却液等は、塗装面や樹脂部品を傷めますので、これらの部品類に付着させないでください。もし付着したら、すぐに洗い流してください。
- 硬いブラシ、またはやすり等は、ご使用にならないでください。
- 樹脂部分を傷めないように、十分に注意をしてください。
- 高圧洗車機を使用しての洗車は行わないでください。特に可動部分や、電装品に水がかかると作動不良や故障の原因となります。

洗車の前に次の部分に水がかからないようにしてください。

- マフラ後部 ビニール袋でカバーする。
- クラッチレバーとハンドルスイッチボックス
..... ビニール袋でカバーする。
- イグニションスイッチ キー差し込み口にビニールテープを貼る。
- エアクリーナの吸入口 ガムテープ、または布でふさぐ。
- フロントブレーキレバーとライトスイッチ
ボックス ビニール袋でカバーする。
- シート ビニール袋でカバーする。
- 次の部分に強く水をかけないでください。

- メータユニット
- ヘッドライト
- ディスクブレーキのマスタシリンダとキャリパ
- ラジエータ
- タンクキャップとフェューエルタップとシートの下、およびサイドカバー内の電装品(イグニション
コイル、スパークプラグ等が著しく濡れると漏電によりエンジンが始動しなくなることがあります)
- フロント/リヤホイールのハブ
- ステアリングステムヘッドパイプ部
- スイングアームのピボット部
- 燃料タンクキャップ
- スロットルボディアッシ

洗車

- 水を流しながら柔らかい布やスポンジを使って汚れを落とし、水を拭きとってください。拭きとり作業を行いながら、破損や傷がないかを点検してください。自然乾燥は塗装面を傷めますのでおやめください。
- 汚れが落ちにくいときは、中性洗剤を使って拭きとり、水で十分に洗い流し、水分を拭きとってください。
- エンジンを始動し、数分間アイドリングをさせてください。エンジンの熱が湿りを乾燥させます。
- 防錆のため、洗車後はドライブチェーン、または各可動部の給油を行ってください。

警告

洗車後はブレーキの効きが悪くなる場合があります。効きが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、効きが回復するまでブレーキを軽く作動させ、ブレーキの湿りを乾燥させてください。

ブレーキディスクやパッドにワックス、オイルを塗らないでください。ブレーキが効かなくなり事故の原因になります。

ディスクやパッドにオイルが付着した場合は、乾燥後オイル成分が残らないような洗浄油で洗浄してください。また、完全に洗浄しきれないときは、パッドを交換してください。

要点

- 海岸地域や路面凍結防止剤を散布した路面を走行した後は直ちに水洗いをしてください。温水を使用すると塩の化学反応を強めますので、洗車は冷水で行ってください。洗車後は水分を拭きとり、金属部品やクロームメッキ部には防錆油をうすく塗布してください。
- 洗車直後、または雨天走行後等に、ヘッドライト内部に「結露」による曇りが発生することがあります。ヘッドライト内部が曇ったときは、エンジンを始動し、ヘッドライトを点灯させ、しばらくすると、曇りは徐々に消えます。

塗装面

洗車後はワックスがけしてください。ワックスは3か月に一度、または必要に応じてかけてください。つや消し塗装面にワックスが付着しないようにしてください。コンパウンド入りのワックスは使用しないでください。

注意
つや消し塗装面にワックスが付着すると、つや消し塗装面を傷めますのでワックスが付着しないようにしてください。

要点

- それぞれの用品に記載されている説明をよく読み、用途や注意事項を必ずお守りください。

102 車のお手入れ

樹脂部品

洗車後、樹脂部品に残った水分は柔らかい布で丁寧に拭きとってください。乾燥後はカワサキ純正プラスチックポリッシュをかけてください。

注意

樹脂部品にガソリン、ベンジン等の有機溶剤が付着すると部品の損傷の原因となりますので、付着した場合は直ちに水、または中性洗剤で拭きとり、損傷がないかを点検してください。

コンパウンド入りの洗剤や硬いブラシの使用は塗装面に傷を入れるおそれがありますので、使用しないでください。

ビニール、クロームメッキ、アルミ部品

ビニール、クロームメッキや塗装をしていないアルミ部品には、中性洗剤またはカワサキ純正バイククリーナを使って汚れを落としてから、水で十分に洗い流し、水を拭きとってください。洗車後はアルミ部品にカワサキ純正プラスチックポリッシュをかけてください。

注意

コンパウンド入りの洗剤や硬いブラシの使用は傷をつけるおそれがありますので、使用しないでください。

長期間の格納

長期間、車を使用しない場合は次の要領で手入れをしてください。

注意

油脂類の廃油は法令で適切な処理を行うことが義務づけられていますのでプライト取扱店にご相談ください。

格納のための準備

- 車全体を念入りに洗浄します。
- エンジンを十分に暖機後、エンジンを止めます。そしてエンジンオイルを抜き取ります。
- ドレンプラグを取り付け、新しいエンジンオイルを入れます。
- 燃料タンクの燃料をすべて抜き取ります。



警告

燃料を抜き取る時は、通気性の良い、火気のない場所で行ってください。

- バッテリーを取り外します。直射日光の当たる所、湿気の多い所、温度が非常に低い所等には保管しないでください。また、1か月毎にバッテリーの補充電を行ってください。
- タイヤの空気圧を2割減らし、前後輪の下に防湿のために板を敷きます。
- メッキ部には防錆油をうすく塗布します。ただしゴム部品とブレーキは避けてください。
- ドライブチェーンに注油します。
- マフラに水が入るのを防ぐためにビニール袋でカバーします。
- 防塵のため車全体にカバーをかけてください。

格納した車を使用する時には

- マフラからビニール袋をはずします。
- タイヤの空気圧を正規の値にします。

前輪	225 kPa (2.25 kgf/cm ²)
後輪	250 kPa (2.50 kgf/cm ²)

104 車のお手入れ

- バッテリーの補充電を行います。
- 燃料を入れます。
- 車体各部に注油します。
- 日常点検の項目に従って点検します。

環境保護について

● 車、または使用済みの部品・オイル等を廃棄するときは？

環境保護のため、使用済みのバッテリーやタイヤ、エンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないでください。これらのものを廃棄するときは、お買いあげのブライト取扱店にご相談ください。また、将来お車を廃棄する際は、お近くの廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

● 廃棄二輪車取扱店とは？

(社)全国軽自動車協会連合会に登録されている販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されている廃棄二輪車取扱店です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口であり、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



廃棄二輪車取扱店の証(230 mm × 200 mm)

● 二輪車リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適性に処理し、再資源化するための費用です。

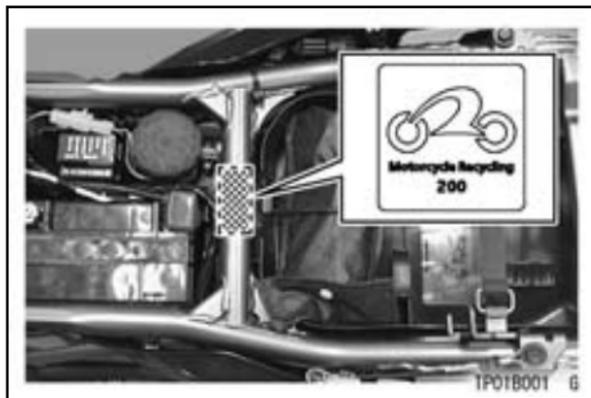
二輪車リサイクルマークが車体に貼り付けられている二輪車は、リサイクル費用がブライト参考小売価格に含まれていますので、あらためてリサイクル料金をお支払いいただくことはありません。ただし、運搬または収集する

106 環境保護について

費用は含まれておりませんのでお客様から廃棄二輪車取扱店、あるいは指定引取場所までの運搬または収集費用はお客様の負担となります。

● 二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼り付けされています。車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体から剥がさないでください。紛失、破損による再発行、部品販売の取り扱いはいたしません。リサイクルマークのはがれ等により、リサイクルマーク付き対象車かどうか不明の場合は、(財)自動車リサイクル促進センターホームページで確認していただくか、二輪車リサイクルコールセンターにお問い合わせください。



二輪車リサイクルマーク(30 mm × 30 mm)

● 廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車のお取り扱いに関しましては、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記までお問合せください。

- (財) 自動車リサイクル促進センター
ホームページ <http://www.jarc.or.jp/>
- (財) 自動車リサイクル促進センター内
二輪車リサイクルコールセンター
電話番号 03-3598-8075
受付時間 9時30分～17時00分
(土日・祝日・年末年始を除く)

万一の故障に備えて

日常点検、定期点検を欠かさず行っていたければ、不測のトラブルは未然に防止することができます。万一故障の場合は応急処置を行って、お買いあげいただいたブライト取扱店へ修理をお申しつけください。

エンジンが始動しない

● スターターが回らないとき

- トランスミッションがニュートラルになっていますか。
- エンジンストップスイッチが  の位置になっていませんか。
- ヒューズが切れていませんか。
- バッテリリード線はきちんと接続されていますか。

- バッテリはあがっていませんか。
- スターターは回るが始動しないとき
 - 燃料タンクに燃料が入っていますか。
 - 燃料系統が詰まっていますか。
 - 燃料の品質が低下していませんか。
 - スパークプラグはかぶっていませんか。
 - スパークプラグは緩んでいませんか。
 - スパークプラグは正常ですか。
 - スパークプラグギャップは正常ですか。

108 万一の故障に備えて

エンジンが止まる

- 1速に入れたとき

- クラッチの切れは正常ですか。
- サイドスタンドが降りたままになっていませんか。

- 走行中に

- チョークを使っていませんか。
- 燃料は入っていますか。
- 燃料タンクキャップのエアベントが詰まっていますか。
- エンジンオイルはありますか。
- バッテリーはあがっていませんか。

ER650C



神戸市中央区栄町通り2-2-2